昭和56年３月15日発行（毎月１回15日発行 通巻137号）昭和55年10月９日第三種郵便物認可

バドミントン 3

The Badminton World No.137 1981



SIMPLE is BEST

『デザインはシンプルでもいい……，本当に価値あるものを長く着たい』

英国気質を伝える
カールトン・スポーツウェア

クラシックコレクション



carlton

That's the name of the game



9203　女子半袖シャツ（綿100%）
￥9,500
9201　女子半袖シャツ（綿43%，ポリエステル57%）￥9,800
9260　女子ショートパンツ（白・紺）
￥9,800

9281　女子巻スカート（白・紺）
￥12,500
9102　男子半袖シャツ（綿100%）
￥11,500
9120　男子ショートパンツ（白・紺）
￥11,500





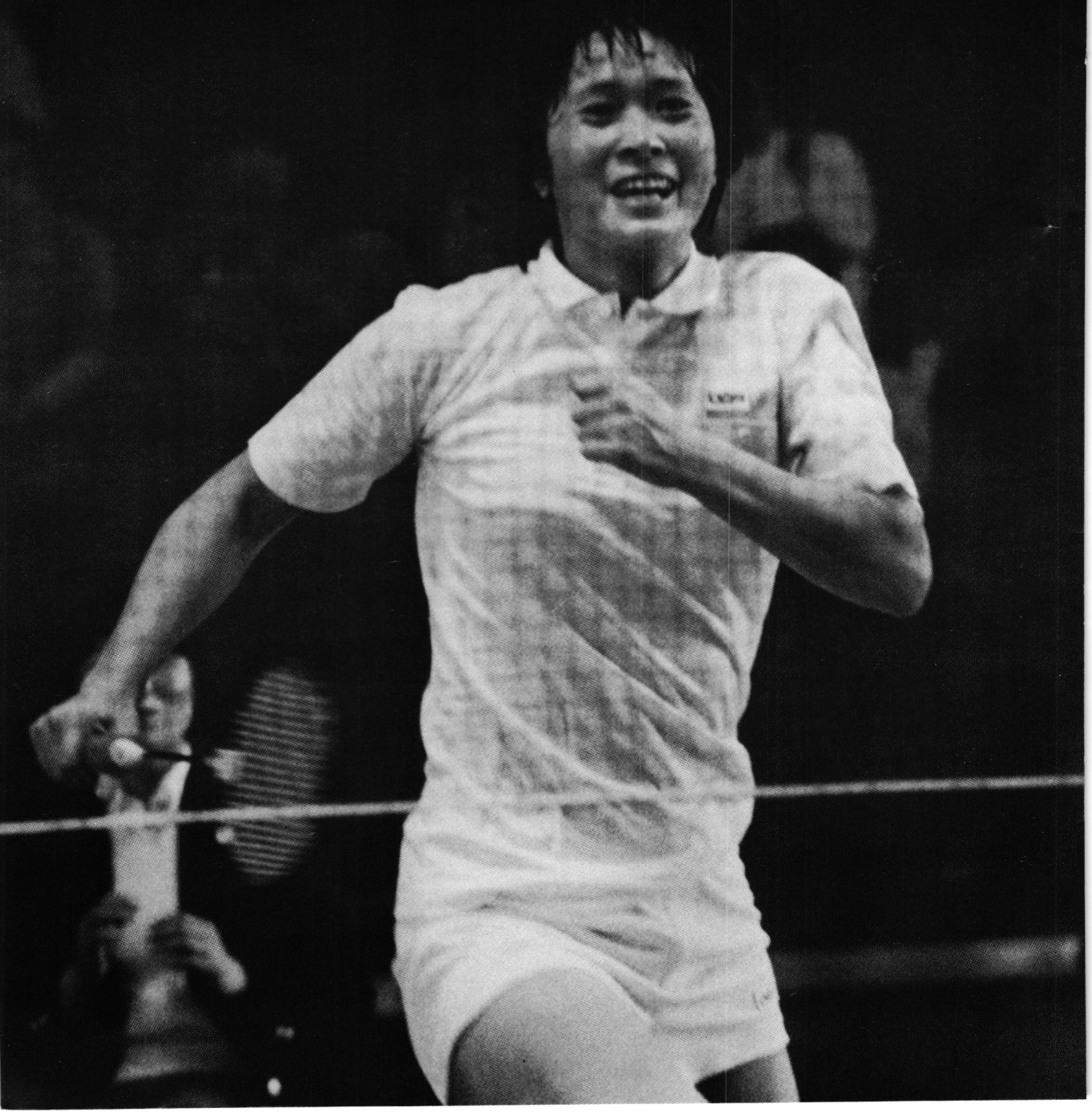
9350　スポーツスーツ（上下）
￥29,000

METRO　総輸入元　メトロレジャー株式会社　〒101　東京都千代田区外神田5-6-4　TEL.(03)833-3661(代)

第12回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

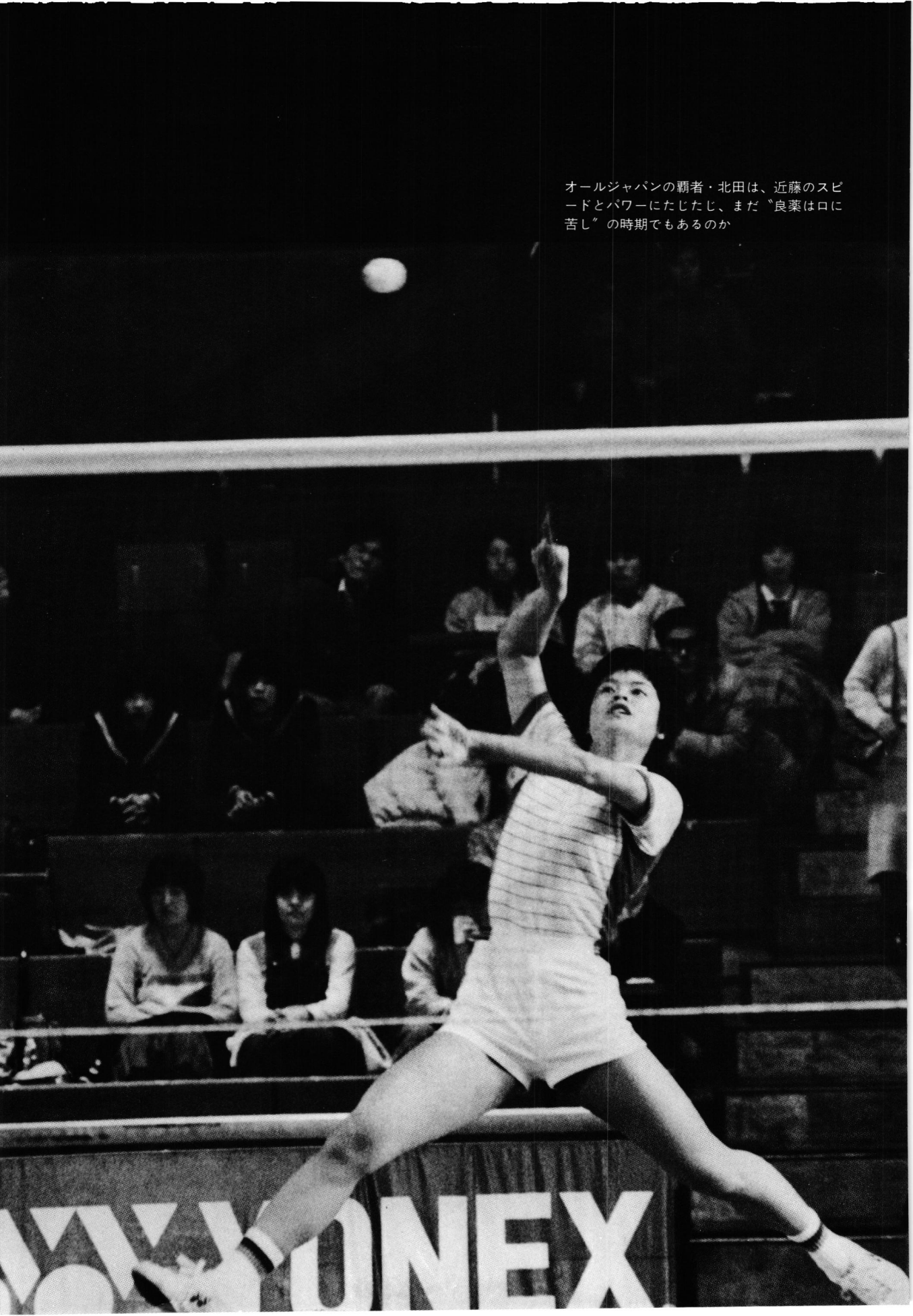
近藤のパワーが復活

久し振りに近藤に笑顔が戻った。しばらく低迷していたが、今大会はジャンプスマッシュの十番に加え、ジャンプクリアー、ジャンプカットの新兵器を披露、断然の強さだった





安定して力のあるところを見せた徳田だったが、決勝ではあっけなく近藤の軍門に下る。これからユーバー杯に向ってシングルスでも頑張ってもらいたいところ



オールジャパンの覇者・北田は、近藤のスピードとパワーにたじたじ、まだ〝良薬は口に苦し〟の時期でもあるのか

勝利へひた走る鮮烈のプロショップ

ラケットショップ元町®

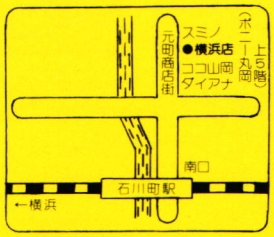
ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

とんで! まわって! コーチして!!

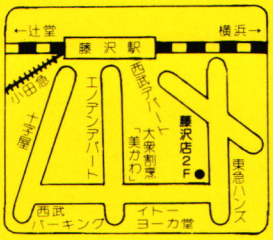
無料巡回コーチング・サービス



®



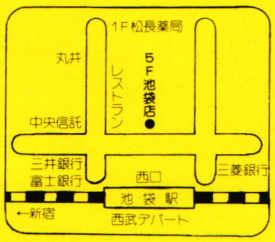
●横浜店
☎045-651-2202 テニス・フロア
☎045-662-9852 バドミントン・フロア



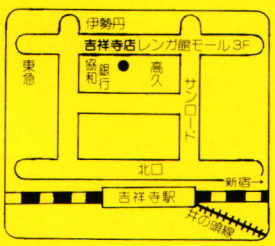
●藤沢店
☎0466-26-2552 テニス・バドミントン



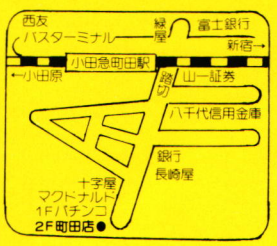
●渋谷店
☎03-400-7390 バドミントン・プロショップ



●池袋店
☎03-988-0215 バドミントン・プロショップ



●吉祥寺店
☎0422-21-7890 バドミントン・プロショップ



●町田店
☎042-728-6050 バドミントン・プロショップ

バドミントン界 3

❶ グラフ 第12回チャンピオンズ・トーナメント	㉞ 全自衛隊バドミントン 自衛官全国から集結
❻ 羽根打ちサービス アンケート大発表	㊳ われらのクラブ 山の上から全国を狙う「菅生中学」
⓬ 飯野佳孝 テクニックを盗め	㊵ 葦原健身 熊本県の実態
⓮ 銭谷欽治 チャンピオンをめざせ	㊷ 後藤忠弘 用語ＡＢＣ
⓰ メディカル・アドバイス	
⓲ 第12回チャンピオンズ・トーナメント 近藤、豪快さ一番、久々に笑顔戻る	
㉘ 後藤忠弘 プレスマンの見たジャパンオープン	
㉜ 韓国・カワサキ親善試合 黄善愛につづく若手ズラリ	

◇表紙デザイン・構成，本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝第12回チャンピオンズ・トーナメントに初優勝した近藤小織(カワサキラケット)選手　撮影＝赤星三樹

論議百出の〝羽根打ちサービス〟
いよいよ大詰め!!

フェアでない

禁止派

VS

賛成派

いや正当だ

本誌編集部による　アンケート大発表

本誌昨年12月号で既版のとおり、いわゆる羽根打ちサーブ（リバース・スピン・サーブ）は、10月のコペンハーゲンにおける会合で、バドミントン競技にとって〝有害〟である、との結論が出され、次のとおり、新しい規定（薬）も作成されるにいたった。

次のときはフォルトである。
サービスのさい、サーバーによってシャトルのベース（コルクの部分）が羽根よりも低い状態で持たれなかったり、落とされなかった場合、および、ベースを打たなかった場合。

そして、この案は、来る5月28日のIBF（国際バドミントン連盟）東京総会の席上、上提され、採択される見通しである。

ジャパン・オープン81にさいして来日したモリーンIBF理事長も、

「羽根打ちサーブは、レシーバーにとってフェアでないので、禁止される公算が大きい」

と述べている。

従来の規定に抵触することなく、攻撃的なサーブを打つという、中国から発したこのアイデアは、インドネシア、マレーシア、そして、今では日本さらに猛反発をしたヨーロッパ選手自身にも使われている。

そこで、本誌では昨年来から今年にかけて、わが国の男女トップ・プレーヤー、指導者に対し、次のようなアンケートを実施しました。

1 〝羽根打ちサーブ〟をあなた自身使うことがありますか。
2 〝羽根打ちサーブ〟を最初に見た時、どんな印象を受けましたか。
3 〝羽根打ちサーブ〟を禁止しようという動きに対して、どんな意見をおもちですか。
4 日本ではすでに高校生レベルでも多く使われています。高校生や中学生が〝羽根打ちサーブ〟を使うことに対して、どうお考えですか。
5 そのほか〝羽根打ちサーブ〟に関してどんなことでもけっこうですので、ぜひご意見をお聞かせください。

この問題に対しての関心が高いことを反映して、非常に多くの方々から、熱心なご回答をいただいた。

◆男子では、銭谷、小島、辻といった選手は〝禁止派〟とく

革命的テクニックかまやかしの邪道か

銭谷欽治（カワサキラケット・12年）

1使わない。

2驚きとゲーム展開における影響力大で、勝つためとはいえ邪道ではないかと思った。

3技術的にはたしかに素晴しいもので、これらに対応するレシーブ技術が向上するのも事実である。また、スピンネットも今ではごく一般的な技術になっていることを考え合せると、羽根打ちサーブを否定することはできない、という考えもあるかと思う。

しかし、スピンネットはラリー中のものであるのに対し、羽根打ちサーブは、得点権のある側のみに特権を与えるものであり、バドミントン本来のラリーの中における技術追求からはずれる気がする。本来サーブ権（得点権）をもっているものは、レシーブ側より不利であることで成り立っているのがバドミントン競技であり、この羽根打ちサービスが認められている現在は、テニス同様、サーブ側が有利となり、バドミントン本来の楽しさが失われているように思う。

4羽根打ちサービスという武器で簡単にポイントをあげることができるという一つの技術をマスターしたことによるおごりというか〝落し穴〟に気づかず、総合的な技術、精神的なレベルアップには決して役立たないのではないかと思う。

辻敏弘（ヨネックススポーツ・13年）

1使わない。

2たしか中国の選手が最初に使用したと思うが、中国のバドミントンそのものを追求する姿勢が表われたと感じた。

3賛成。

4たしかにサーブは、ダブルスにおいて非常に大きなウェイトを占めているが、それ以外のストロークをマスターすることが先決である。

5結論としては、サービスでポイントをあげる、有利に展開するということは大切なことだが、レシーブ側もそれに沿ってプレーすればよいわけで、要するに羽根打ちサービスをしたからといって優勝できるものではない。

そして、バドミントン競技というものは、テニスや卓球とは違って、サービス後のストロークの応酬で決着をつけることが基本であり、それがバドミントンの面白さ、醍醐味となっているのではないだろうか。

最後に、サービスで勝とうなどと安易な気持ちを持たずに、（とくに学生諸君には）オーソドックスなバドミントンを追求するよう望みたい。

今泉勉（高岡市役所・17年）

1ときどき使う。

2バドミントンのおもしろさが減退していくのではないかと思った。

3禁止したほうがよい。

4基礎をしっかりしたうえでのものならばよいが、この段階では基本を身につけたほうがよい。

斉藤敏行（カワサキラケット・14年）

1ときどき使う。

2どえらいものが出てきたという感じを受けた。

3禁止すべきである。

4反対である。なぜなら大味な試合になるから。

権藤浩二（日本体育大学・10年）

1ときどき使う。

2おもしろいことを考えだしたなと思った。

3禁止に対しては反対であり、バドミントンの進歩を妨げることになるかも知れないと思う。

4中・高校生の場合は、どちらかというと反対である。

5とにかく禁止には反対です。

六川利康（日本大学・8年）

1よく使う。

2有利なサーブだと思った。

3べつに禁止しなくてもよい、禁止する必要はないと思う。

4べつにかまわない。

に、高校生レベルに対しては、羽根打ちサーブにたよることなく、もっと基本的技術を身につけるようにとの要望が強い。

しかし、その高校生や大学生自身は、〝技術革新〟とのとらえ方が多く、〝存続派〟の意見が占めている。事実、インターハイや大学リーグでは、多くの選挙が巧みに、効果的な羽根打ちサーブを使っている。順応性の高い〝若さ〟ゆえか。

また、指導的立場にある人々の意見も分かれている。

熊本旋風を巻き起こし、高峰、陣内といった〝大物新人〟の育成に力を注いだ工藤氏、比叡山高校の監督藤上氏、女子サントリーチームのコーチ宮崎氏は、〝存続派〟であるのに対し、新女王・北田を生んだ四条畷学園の片岡氏は〝禁止派〟となっている。

***氏名**（所属）のあとの年数はバドミントン歴。

松野修二（山梨県日川高校・6年）

1よく使う。

2バドミントンも技術革新の時代になったと感じた。

3多くの球技スポーツがその技術開発を競っている中で、新技術を禁止するIBFの働きかけには、ちょっと古さと固さを感じさせられます。バドミントンが世界的になるための要素の一つに新技術があるのではないでしょうか。

4新しい技術はどしどし取り入れるべきである。このことよりも、中学生の合成シャトルをなんとかしないと選手が伸びないと思う。

4羽根打ちサーブは、レシーブする側も受けづらいが、そのリターンの仕方を研究すれば、サーブ側も返球されたシャトルが受けにくくなると思う。

井上哲章（熊本商科大付属高校・10年）

1よく使う。

2ダブルスに最適。

3自分が使っているせいもあるが、羽根打ちサーブはサーブとしては非常に攻撃的になるし、禁止にならないほうがいい。

4小さい時から羽根打ちサーブをしたほうがよい。

5羽根打ちサーブをやめるとヨーロッパ勢が強くなるのではないか。

宮康二（山梨県勝沼中学・3年）

1よく使う。

2すごいサーブだと思った。

3禁止しないほうがよい。

4よい傾向だと思う。

西村金治（粟津中学校教育・11年）

1よく使う。

2フォルトのように思えたし、実際にレシーブしてみて、ネットに当たったり、サイドを割ったりでゲームが続かず、ダブルスとしてのおもしろさがなかった。

3現在では、ある程度のレベルにいる人たちであれば見慣れているし、レシーブに関しても工夫され、プッシュされる場合もある。大げさになるが、これからはサーブのみならず、ラリー中にもこうしたショットが生まれるかも知れないので、どんどん使うべきだと思う。

4中学では基本を学び、高校ではパワーと技術を身につける時期だと思うので、中学生にはどうかと思う。

5何らかの形で、バドミントン界のプレー、技術向上に役立つと思われるので、使うべきだと思う。

後藤武信（ヨネックススポーツ・14年）

1ときどき使う。

2ダブルスでは非常に有効なサーブである。自分でも研究・練習して試合で使えるようにしようと思った。

3禁止しようとするのはおかしいのではないか（卓球でも変化球サーブがあるし、それに対するレシーブ技術が確立されているので）。

4使うことに対しては反対ではないが、このサーブだけに頼って、他の技術や本来のバドミントンのプレーがおろそかになるようではいけない。高校生であったら先生や監督・コーチの指導にもよるが、サーブだけで〝セコ〳〵〟ポイントを取ろうというプレーでは、いい選手・いいチームはできないと思う。

5私個人の考えでは、ラケットに対する定義や規則がないのに〝マカロニガット〟を禁止したテニスのように、このサーブを禁止するのはまちがいだと思う。結論として、禁止するほど神経質にならなくてもよいと思う。

栂野尾昌一（ヨネックススポーツ・20年）

1使わない。

2不安定なサーブで、本人にとってマイナスではないかと感じた。

4羽根打ちサーブは不安定であり、コントロールがむずかしい。従来のサーブを、より正確に打つよう練習したほうがよい。

5サーバー自身がシャトルのコース（ゆくえ）がわからないようならば、パートナーが返球のコースも読めず、不利になる。

工藤勇参（熊本中央女子高教員・20年）

1使わない。

2サービスの革命である。

3それに対処する技術を身につけるとよいのではないだろうか。

4使うべきである。

5バドミントンが日進月歩していることであると考える。それ以上のレシーブをするとよい。

藤上良信（比叡山高校教員・16年）

1ときどき使う。

2飛び方の変化が非常におもしろいと思った。バドミントンがシャトルの回転によって、新しい進歩をみせるのではないかと感じた。

3バドミントン関係者以外からすれば、大変興味深いことであり、バドミントン競技の発展にもつながるのではないかと思うので、選手の現在の立場からでなく、競技のおもしろさをますうえで、禁止する必要はない。

4使える者が、研究して使用することには大いに賛成。羽根打ちサービスに対する対応策やラリー構成の工夫など研究する要素がふえるので、いろいろ工夫すればよい。

5中国のあるコーチはバドミントンの発展について「シャトルの回転を工夫させること、スピードの追求という方向に進むであろう」と述べています。単なる羽根つきからの脱皮につながらないだろうか？

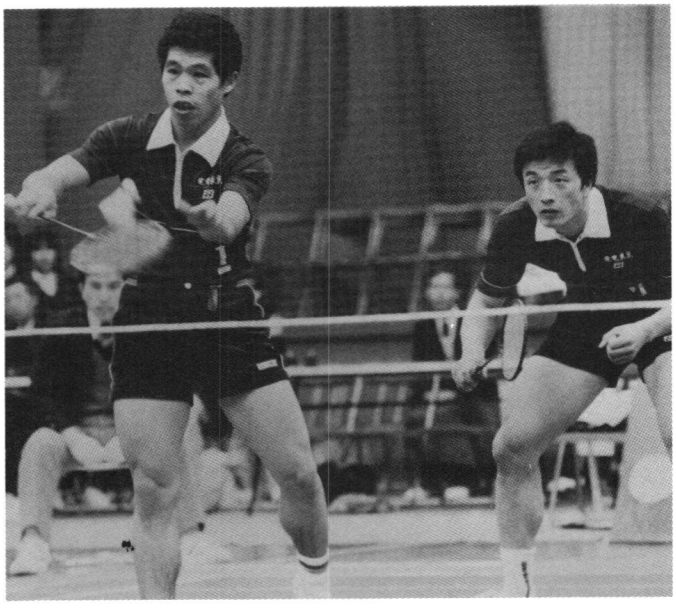
学生の間でもっと研究されれば、もっと楽しいことであるのだが。

片岡輝明（四条畷学園監督・23年）

1使わない。

2苦肉の策とみえた。

ベテラン・池田も〝羽根打ちサーブ〟を時おり見せる



大勢を占める〝基本習得への努力を〟

◆わが国女子選手には、まだ羽根打ちサーブは見られないようだが（イングランドのジェーン・ウェブスターは、あまり効率はよくないものの、羽根打ちサーブに挑戦している）、威力は認めるものの、禁止すべきだという湯木、谷……ほか。

自分でも使うことがあり、存続を希望する陣内、使わないが禁止には反対の高峰、浜田の若手選手。

やはり男子同様、キャリアによって対応の仕方が異なっている。ただ、このサーブだけにたより、他の技術、努力をおろそかにすることへの不安は一様にもっているようだ。

湯木博恵（カワサキラケット・20年）

1 使わない。

2 中国の選手が使っているのを見たのが初めてです。その時はさすが！という感じがしましたが、中国、インドネシアが考えそうなことだとも思いました。

3 禁止すべきだと思います。正常でない飛び方という意見は当然ではないでしょうか。

4 高校生などでは、そのサーブだけでポイントをとるが、他のストローク、動きは全然ダメという選手が多いようです。

5 バドミントン界での一つの流れとも受け止めています。しかし、本髄というものを見きわめてもらいたいと思います。

谷美津代（サントリー・15年）

1 使わない。

2 やはりすごいと思いました。

3 一般の人々が見てもわかるプレーをしたほうがいいと思います。この羽根打ちサーブによって、ラリーが続かないようなことになれば、禁止すべきだと思います。

4 羽根打ちサーブにたよりすぎて、他のプレーがおろそかになる、ということがなければ使うこともいいでしょうが、それよりも基本をしっかりと身につけてほしい。

5 女子の場合は、完全な羽根打ちサーブのできる人がいないので、まだまだ対応できますが、男子の場合のように、プレーが続かなくなるというのは、見る人にとっても、バドミントンをつまらなくしていると思います。また、シャフトの破損が早いという問題も出てくるのではないでしょうか。

徳田敦子（サントリー・12年）

1 使わない。

2 生来器用なアジア人が考え出しそうなことだと思いました。

3 羽根打ちサーブはフォルトだと思うので、禁止すべきだと考えます。

4 サーブが試合で使用できなくなるとシャトルの特性により、レシーブが不可能な変化をするシャトルを使用する場合は（日本製のシャトルは比較的変化は少ないが、外国の製品の中には、キリモミ状態になるものがある）バドミントンのおもしろさを半減させてしまうからである。

したがってこのサーブを禁止するのは原則として反対である。

〝原則として〟といった理由は、

3 禁止すべきである。

4 パワーやスタミナをつけるより、楽な方法を選んだことに対し、失望した。

5 バドミントンの邪道を考え出したものと思う。正しいバドミントンを追求すべきで、くだらないサルマネをするべきではない。

宮崎克巳（サントリー・12年）

1 よく使う。

2 最初に思いついた選手の創造力に感心し、サーブは守備的だという従来からの通念を破るすばらしいものだと思った。そして、自分、チームの選手にも使わせようと考えた。

3 現在論議をよんでいる対ECの貿易摩擦みたいなもので、このサーブによって不利になるヨーロッパ側が自分を擁護しようとしているのだが、より大きな立場からみれば技術の進歩であり、これに対する防御策が生れて、またそれがいっそうの進歩へとつながると思う。

ければ無意味だと思います。

平久美子（三洋電機・8年）
1使わない。
2いろいろなことを考え出すものだと思いました。
3あの打ち方は、やはりフォルトだと思うので賛成です。
4中学・高校で羽根打ちサーブを使うことはべつにかまわないと思いますが、技術ばかりにはしってしまっては、パワー、体力がなくなってしまうのではないでしょうか。

山内美子（新潟青陵学園高校・5年）
1使わない。
2こんなサービスがあったのかと驚いたと同時に、これから羽根打ちサーブがどんな影響を巻き起こすか不安だった。
3禁止すべきだと思います。
4羽根打ちサービスに慣れているほうはいいですが、一般にはまだ慣れていないのでは？
とにかくこのサーブひとつで試合の勝負が決まってしまうので、反対です。

柴田真弓（東京女子体育大学・10年）
1使わない。
2すごい変化球だと思いました。
3実際に羽根打ちだと、二度打ちになっているので禁止に賛成。
4あまり感心しない。中・高校生ぐらいのレベルでこのサーブを使うと、レシーブ側にうまく受ける能力がないため、ゲームにならないように思います。その点で、他のストロークの技術向上に妨げとなるのではないでしょうか。

冨田美千代（四条畷学園女子短大・7年）
1使わない。
2すごいと思いました。
3禁止したほうがいい。
4サーブにたよりすぎ、全体の動きができなくなるのではないでしょうか。
5バドミントンをつまらなくしているようです。

大塚ソノエ（ヨネックススポーツ・12年）
1使わない。
2自分でできれば最高。試合展開にプラスになると思いました。
3禁止になれば試合の展開がまた違ったものになるだろうし、禁止になればプレーヤーにとってはやりやすいと思う。
4ただ真似をしてやっている人が多く、実際にきれいにはいってくるサーブは少ないと思う。まずは、基本的なサーブをこなすことが先決。

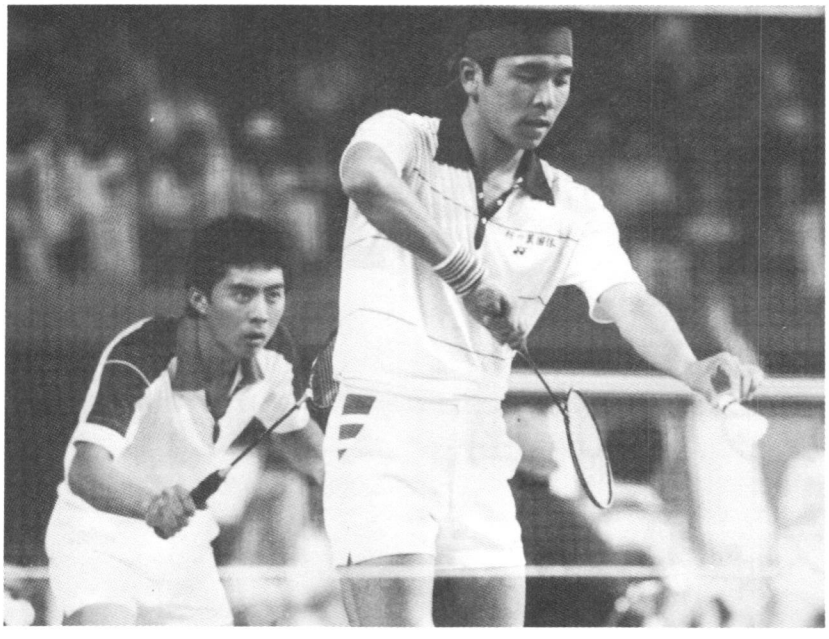
浜田由理（東京女子体育大学・8年）
1使わない。
2バドミントンにもバレーボールなどのような変化球ができたのかと感じた。
3バレーボールやテニスなどではいろいろな変化球が生まれ、使われているのに、バドミントンでこれを禁止すれば、バドミントン進歩やレベルをストップさせることになると思う。
4よい傾向だと思う。

陣内貴美子（熊本中央女子高・8年）
1ときどき使う。
2よく考えてある高度なサーブだと思いました。
3ヨーロッパ勢は反対だといっているようですが、技術的にもどんどん高度になっていることだし、禁止するのはおかしいのではないでしょうか。
4今のバドミントンは、社会人に追いつき追いこせの時代であるので、高校生が使っても別にかまわないと思う。しかし、中学生が使うのは、力もないうちから技術にこだわることになり、あまり感心しない。

高峰和子（熊本中央女子高校・9年）
1使わない。
2変化するので、レシーバーにとってはいやだなと思いました。
3禁止しなくてもよい。それは、もっとバドミントンがいろいろな方法を考え出してもいいと思うからです。
4反対ではない。一つの勝つ手段であるから。
5オーバーウェストになる可能性が強いと思うので、審判はそこをしっかり見るべきだと思います。

飯野裕子（ヨネックススポーツ・15年）
1使わない。
2すばらしい技術だと思った。
3羽根打ちサービスのできる選手は続けてもよいと思うし、この技術を修得するまでの経過を重んじたほうがよい。
4このサービスの利点は、レシーバー側がプッシュできずにサーバーが攻勢に立てるというものなので、技術レベルの問題ではないと思うし、よい（一点でも多くポイントに結びつく）ショットは、低年層でもどしどし取り入れるべきだと考えます。
5このサービス一本を〝ぴっさげて〟他の技術は伴なわなくても勝ち進んでいく選手もいますが、これも大きな技術の一つではないでしょうか。
羽根打ちサービスに打ち勝つダッシュ力や、その他いろいろな練習にはげみ、またいっそう全体のレベルアップにつながることになると思います。

横山ナルミ（サントリー・6年）
1よく使う。
2球技の中でもバレーボールやテニスのように完全な球形のボールを使う球技ではないバドミントンで、ヘアピンショット以外にも変化球が打てるのかとにかく驚いた。
3べつに禁止するまでいかなくてもよい。
4高校生だから中学生だからといって、使ってはいけないということはないと思う。いろいろなことを経験して、他のプレーでも活用できるようになれば、

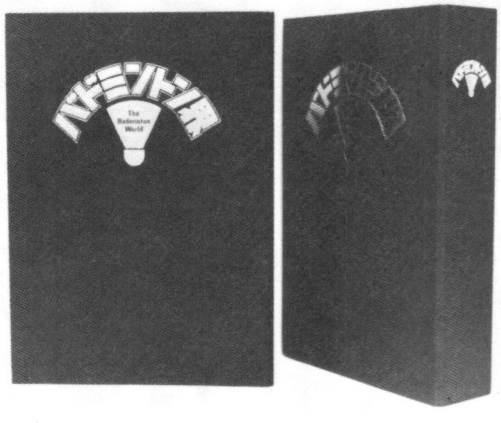


もっと高度な技術を身につけることができるのではないでしょうか。

今回のアンケートは、サンプル数も少なく、これをもって、〝日本のプレーヤーは云々〟とはいえないが、選手たちはこのように考え、このような意見をもっているということを読み取っていただきたい。

また、読者の皆様のご意見をお待ちするとともに、ご回答いただいた方々にご協力を感謝いたします。

専用合本バインダーをご利用ください！

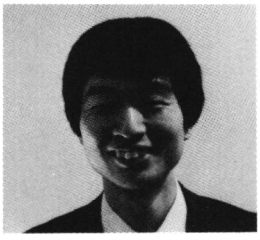


本誌は毎月発行ごとに保存しておけば，バドミントンの百科辞典となるものです。そのために本誌1年分12冊を，穴をあけたり，ノリを使ったりすることなく，かんたんに，しかも長い年月にわたって保存しておくことのできる“**専用合本バインダー**”をつくってまいりました。

しかし，用紙，レザーをはじめとする資材の値上りにより，このたび定価を**1冊 700円**に改定させていただきます。まことに申し訳ありませんが，ご了承のほどお願いいたします。〔本誌綴じ込みの振替用紙には旧定価＝500円と印刷してありますが，**訂正のうえ**ご利用くださるようお願いいたします〕

〈バドミントン界専用合本バインダー〉
表紙＝黒色レザーにタイトル銀パク押し
金具＝特殊クリップ使用
送料＝1冊350円、3冊まで都23区400円第一地帯500円第二地帯650円第三地帯800円
お申込み方法＝1冊定価 700円に，送料を加えて，本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ，お近くの郵便局からお申し込みください。

テクニックを盗め



ダブルス講座　飯野佳孝

サービス・リターン

先月の補足、クロスへのショートSは打ちながら打った方向へ走れ。

はじめに、前回で述べたサービスについて、誤解を招く恐れがあるので補足しておくことがある。

まず、ショートサービスのクロスは、打ったらただちにというよりは**〝打ちながら〟の感覚で、打った方向へ走れということ。**

打った方向へ走ることによって、サーバーが処理する割合いが多くなり、分担をはっきりさせることができるからだ。（サーバーとパートナーの）

第2に補足することは、ロングサービスの頃で、センターへ打ったサービスはサイドへヤマを張れと書いたが、これは低いロングサービスに限る。

つまり、低く時間的余裕のないロングサービスに対して、相手は本能的に打つコースが決まってくる。

相手の反射的本能を利用し、ヤマを張る訳だから、これは低くて速いものでなくてはならない。

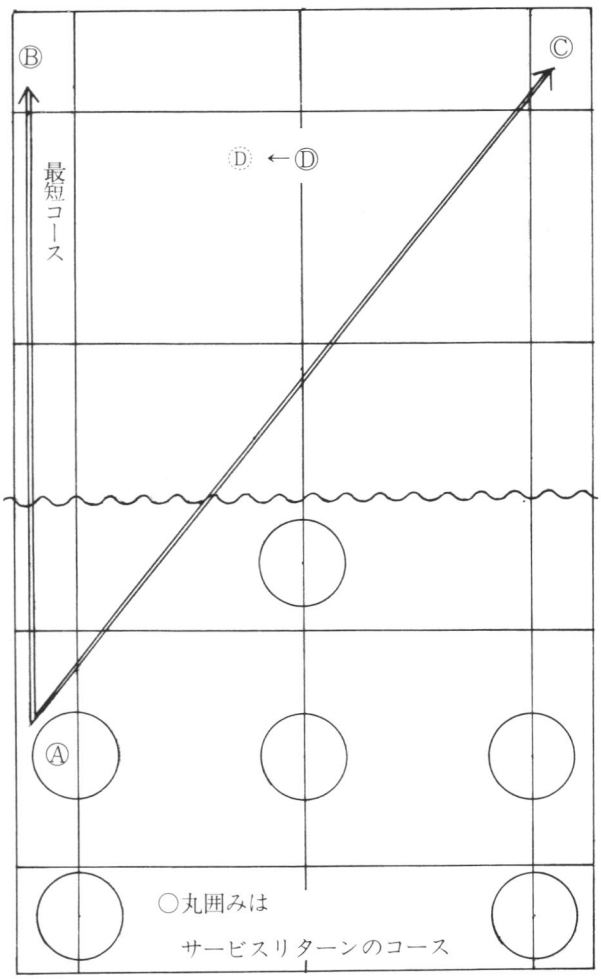
上級者に対しては、サイドへのプッシュは大きな危険性を伴う場合が!!

さて、では今回の本題〝サービスリターン〟に入ろう。

サービスリターンをしてみて、試合の前半（なるべく早い）のうちに、相手の癖、どこが強いか弱いか、動きはどうか等を見なくてはならないが、意外にサイドへ対しては〝落とし穴〟になることがある。

ノータッチとなってエースポイントになることもあるが、危険性があることも知っておかなければならない。

サイドへプッシュした場合、攻めのつもりが一転して守りになることがある。



それは、パートナーが最短コースのリターンを意識するあまり、本能的に体がⒷ方向へ移動し、気持もⒷ方向へ片寄ってしまうのだ。

このことにより、Ⓒ～Ⓓ間の距離が長くなり、Ⓒへ返球された場合、**パートナーの走る距離が長く、苦しくなって攻撃が困難になってくるのだ。**

サービスリターンを、百パーセント攻撃に結びつけるためには、サイドへのプッシュは危険性があるのだ。

初・中級者には、サイドを攻める方が効果があるが、とくに上級者に対しては注意が必要になる。

A地点にかかわらず、サイドへはネット際、またはバックパウンダリーライン際からも同じである。

くどいようだが、重要なことなので、もう少し詳しく説明しよう。

サービスを、Ⓐへリターンすると、Ⓑへのコースが最短コースとなってしまい、本能的にⒹの位置がⒷ方向へ動き、Ⓒへのコースは対処し難くなってくる。

Ⓒ～Ⓓ間が長くなり、後衛が苦しくなってくるのだ。

後衛には、本能的に相手からの最短コース（Ⓑ）をカバーする意識が働くことを知らなければならない。

後衛の意識を、最短コースに釘づけにすることは、逆にクロスに対して弱点をつくることになり、百パーセント攻撃に結びつけるためには好ましいことではない。

ネット際へは、コーナーを狙うな。すべて〝センターへ戻せ〟

また、サービスをネットへリターンするコースも、同様の意味から**〝センターへ戻す〟**のがベスト。

ここで注意して欲しいのは、ストレートのセンターライン際へのサービスに対しては、**やや斜めにリターンすること。**

真っ直にリターンすると、プッシュされ易いのだ。

クロスサービスに対しては、冒頭に書いたように、サーバーは打った方向へ走ってくるのが鉄則だから、**これもセンターへ戻すこと。**ストレートは危険極まりない。

味方のネットへ落としたシャトルが、センターから上がってくることは、後衛にとって動き易く、反撃される危険性が少ないのだ。

サービスリターンは、ネット際、そしてハーフへのプッシュ、さらに相手の前へ出ようとする動きを止めるために、時折りコート奥深くを狙うのも有効な場合がある。

しかしこれは、上級者とくに男子では、浮いた球は叩かれる恐れがあるので、トリッキーな工夫が必要になってくる。

ノーマルな打ち方では、危険が大きすぎるので、フェイントモーションになるような打ち方をしなければならない。

次号では、プッシュ、ドライブに共通する、フェイントモーションになるラケットワーク〝**ワイパーショット**〟についてお送りします。

〝乞う、ご期待!!〟

チャンピオンをめざせ！



銭谷欽治

鉄則を守ることが、かえって不利な状況を招く!!

〝鉄則を忠実に守ることが、かえって不利な状況をつくり出すこともある〟

実践においては、この鉄則を破ることもある。

スマッシュ・レシーブを見て、つくづく私はそれを考える。

バドミントンに限らず、何事においても基本とか鉄則というものがある。その基本とか鉄則というものは、大体は普遍的であったり絶対的であったりする信仰的な存在になっている場合が多い。

しかし、しかしである。

今月は、スマッシュ・レシーブについて述べると同時に、鉄則を破ることとは一体どんなことか、考えていきたいと思う。

われわれが、初めてコートに立って教えられることは**〝コートの四隅を狙え〟**である。

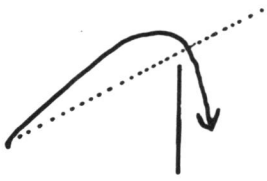
この鉄則は、試合でも練習でもバドミントンの基本として、もっとも重要なことのひとつである。

しかし、長い間バドミントンと接するうちに、また世界のトッププレーヤーたちと競い合うちに、冒頭に書いたように、〝鉄則を忠実に守ることが、かえって不利な状況をつくり出すこともある〟のに気づくようになった。

スマッシュ・レシーブを、四隅に正確にリターンするには、大変なコントロールを要する。〝四隅を狙う〟考え方で、試合中にスマッシュ・レシーブすることは、大変な危険性を伴なうことなのである。

つまり、より四隅へ正確なリターンするには、ネット際へ次のような放物線を描かなければならない。

図1



相手を、ネット際へ引きつけるためには、それなりの危険性を伴なう上に（ネットへひっかけたり叩かれたり）、実際にきれいに入ったとしても、あまり効果は期待できない。

なぜなら、①図のようなフライトを描くストロークが、一番鋭いヘアピンを打ち易いのである。

ミスする危険性を犯してまで打ったストロークが、実は相手にとって一番手ごろなタマになるとは……。

こんな不合理なことはない。

これは、あなたにとってどんなタマが、もっとも良いヘアピンを打ち易いか考えてみれば判ることだ。

ネットにより近く、スピードのないタマが、一番ヘアピンし易いはずだ。

逆にいえば、ネットから少し離れた位置からは、技術的にも精神的にも鋭いヘアピンを打つことは困難だといえる。

ならば、相手のスマッシュをネットぎりぎりに、しかもスピードを殺して返球することは、「どうぞ、続けて攻撃してください」といっているようなもの

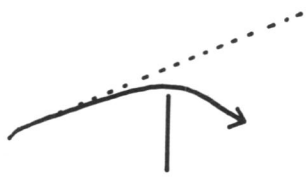
だ。

ここが、鉄則を実践に応じて破らなければならないところ。

世界一のレシーブ力を誇るハルトノにも、それは多く見ることができる。

つまり、ネット際へ落とすことをあまり考えずに、**〝流すように〟**返すのである。

図2



これで、ネットへひっかけるミスは大分減少するはず。

しかも、相手にとっては連続攻撃をかけ難い。

勿論、全部が全部、鉄則を無視しているのではない。

スタミナを無くした相手が、苦しまぎれに打ってくるスマッシュに対しては、丁寧に四隅をつくことが、より大きい効果を持たらすこともある。

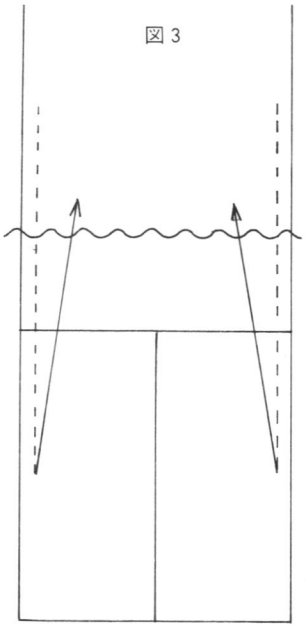
また、練習時においては、四隅を狙うことがコントロールをつけるもっとも良い方法であることも確かだ。

しかし、試合はあくまで勝つことを目的にしたものであり、四隅をつくことでもキレイなプレーをすることでもない。鉄則に固執するあまり、つまらないミスを繰り返す〝オロカ〟さは避けるべきだ。

これは、コースについても同じようなことがいえる。

押されぎみの場合、どうしてもストレートへしか返球できないときは、素直にサイドライン際へリターンすることはない。

図3



こうすれば、自分のミスも少なくなり、相手にとっては素直な真っ直なリターンより打ち難い結果となる。

〝四隅を狙う〟という観念を、ここでも捨てなければいけない。

実践で勝つには、練習のための練習、基本のための基本から抜け出して〝勝つための発想〟をしなくてはだめだ。

相手は余裕を持って攻めているのだから、サイドラインぎりぎりへ返球されても苦にはしないし、逆に際どいコースを狙うことによって、サイドを割ってしまうこともある。

ここでも、自分はどんなタマを打ったらミスが少ないか、相手が攻撃し難いかを考えなければいけない。

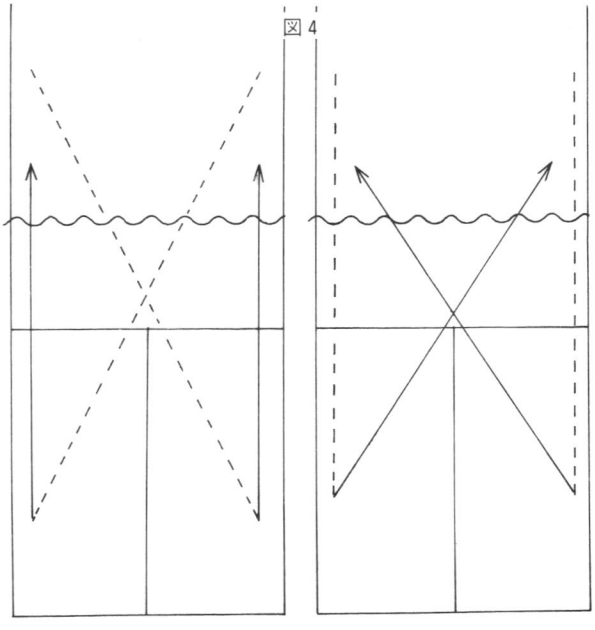
最良の方法は、やや内側へ入れるようにリターンするのである。

とくに、攻撃力最優先の最近のシングルスでは、いかに相手の攻撃を切り抜けるか、スマッシュレシーブにかかるウェートは想像以上に大きいのである。

それでは、スマッシュレシーブのコースについて書いてみよう。

図のように、ストレートにはクロス、クロスに対してはストレートが原則となる。

図4



これは、相手をより多く走らせることが目的である。

そして、ボディアタックに対しては、できれば大きく振ってやるのが最善だが、できない場合は浮かないリターンをすることが肝心。

ボディアタックする方は、打つと同時に前へダッシュしてくるのが常だから、プッシュされないようにすることが大事だ。

また、バックサイド寄りのスマッシュの処理は、左足を送って（右利きの場合）取った方が良いように思う。

右足を出して取って悪いという訳ではないが、時間がかかるし体力を使い、戻りも遅くなるからだ。

クロススマッシュに対してのアドバイスをひとついうと、シャトルを追いかけないこと。

シャトルの軌道を想定して、途中でカットするつもりで手を出してみること。

以外に、手の届く範囲を通過するものだ。

バドミントンを楽しく

メディカルアドバイス

四谷健二郎

骨あれこれ

最近の新聞をよんで目につくことが二つある。

一つは、女の子の貧血、もう一つは、骨折のことだ。貧血のことは、別の項でのべることとして、この骨折はすてておけない。

一五センチの台の上からとびおりて「骨折」、これはニュースになる。

スキーに行っての骨折、これはニュースではない、なぜなら、最近のスキーの金具は骨折するように作られているからだ。

スキーの金具やクツが骨折するように作られていると書けば、作っている会社、メーカーからしかられそうである。原因はメーカーより、それらの道具にふさわしい骨格を作っていないからだといわれる。テニスやバドミントンでも例外ではない。

自分の歩き方、姿勢についても反省してみよう。

胴長で脚が短いといわれた日本人も、ようやく足が長くなったようだ。ところでどうであろう、その歩く姿勢をみると、膝と膝との間があいているのにおどろく。うしろから見ると足の間から向かうの景色がまるみえ。

そればかりか、女の子でも男の子でもオシリの小さいこと。ちょっと下品ないいかただが、オシリの穴がうしろから見えてしまいそうだ。これでは、女の子では安心して子供はうめないし、男の子ではスポーツ選手にはなれそうにない。

プロ野球の選手をみるがよい。オシリの大きい人ほど、活躍しているのではないか。

歩き方も感心しない。体を左右に動かす人がふえてきた。この歩き方、チンパンヂーとそっくりだ。

ネコ背の人が目につく。ろうかからみるとC型だ。これらは、いわずとしれた運動不足と心構えの悪さからきている。

◉背骨

人の骨は数多しのものが集まって骨格をつくる。

骨格のことを Skeleton と書くが、これはギリシャ語の「乾かす」という意味に由来する。いいえて妙である。中学や高校ではもちろん、小学校でも、特別教室や理科教室に行くと必ず「ガイ骨」やら人体の骨の標本にであう。

とびついてくいつくわけではないが、ゾーとする。それなのにさわってみたくなる。

ヒトの体を完全にスルメようしく乾かしてみれば、くちたミイラに似てくるからだ。あの理科室の標本のようにだ。

実際のところ、この骨格にはさまざまな軟組織がまつわりつき、人の全体ができあがる。見かけの上では、骨と筋肉だけの人間であるが。

数の定かでない種子骨を除くと、人間さまには二〇六個の骨がある。このうち、なんといっても一番長いのは大腿骨である。

ふつう人間の身長の二七・五%を占める。そして、最も小さい骨は、中耳にある三つ目の耳小骨の一つのあぶみ骨、長さは二・六から三・四ミリ、重さ二・〇~四・三ミリグラムである。

母親の胎内を、大昔の海のようだ、といった人がいたが、これは赤ちゃんの生命が子宮の羊水の中に誕生するからだ。頭と胴の区別はおろか、三週間にな

ると、三ミリ内外の平べったい円形の生命に、将来、背骨になる背索とよばれる青白い管が一本通りはじめる。

この背索は、セラチン状（ニカワのこと）の軟骨を形づくり、この軟骨を取りまくかたちで骨の輪ができる。この輪は次第に内側にむかって発達し、背索をいくつにも分断、せんい状の結合組織によってつながれた形、つまり背骨になる。

背骨というは、日常的ないい方、学問的には背椎と呼ぶ。

人の全身骨格は、無気味なほどヒトの外形に似ているので外から、だいたいの想像がつく。

この骨格の重さは、ヒトの体重の約一八%を占める。つまり約一〇キロであり、二〇〇をうわまわる個々の骨から成り立っている。

これらの骨の中で、最も歴史の古いのが、からだの中軸にあり、俗にわれわれは、これを「セボネ」とよんでいるわけだ。

セボネ、つまり椎骨の一つ一つは不規則な形をしており、トゲがはえたような数個の突起を持っている。自分の体を大きく前方にまげてみるとよい。この突起の列を一線上に触れることができる。また友達のこうした様子をながめれば、突起が点々と列をたしているのがわかる。

海氷浴に行けば、海岸の砂の上に魚の死体がころがっている。もちろん肉はなく、骨だけだが、白々ぼくひやけたものを見た人は多い。一本の背柱を中心にトゲの出ている様子がわかる。

背柱のことを英語で Spinal colmn と書くが、これは 骨の柱という意味になる。

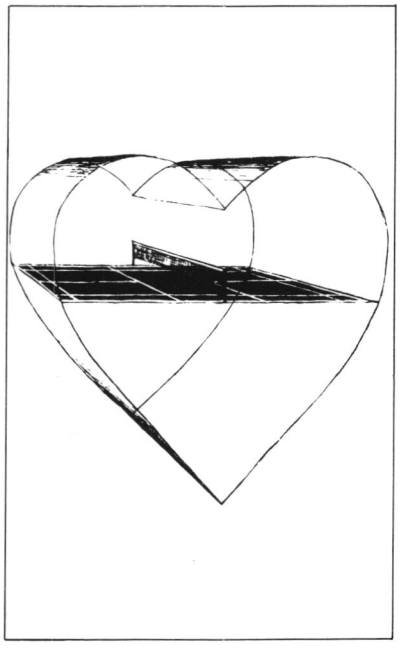
背椎は、トゲ状の突起をもったウスのような形をしており、ヒトでは両面が少しへこんでいる。この背椎の骨と骨との間には、椎間板があってクッションの役目をする。

生まれてまもない赤ん坊の背骨は、魚や両生類のようにほとんど直線で、フトンに寝かせているときには、頭から足の先までベッタリと密着して一本の丸太のようだ。少し大きくなってはうようになると、首がもちあがり頸椎の湾曲ができて、は虫類に似てくる。

おすわりができるころになると、胸椎が湾曲し、立ちあがって歩きはじめると、体をささえる腰椎が反対側に曲ってS字状になる。

このS字状になることは重要なことで、ゴリラやチンパンジーはC字状のままである。だから歩くことが下手である。

このS字状になるということは、背柱が単一本の骨ではないということであり、それぞれ椎骨の間で、すなわち多くの個所で少しずつ曲がり、凸彎ないし凹彎している。



◉椎間板

前述したように背骨は一本の骨ではない。二四個の椎骨のつながりだ。これをつないでいるのが椎間板、計二三個ある。椎間板と書けば板のように思えるが、そうではなく車のタイヤのような構造をもつ軟骨である。

このタイヤ様の軟骨の厚みは、一番大きい腰骨のもので一・五センチ、だ円状の直径は三～五センチ。タイヤ状というが、中身は空っぽではなく、水分をたっぷり含んだゼリー状の物質が入っている。これをムコ多糖類という。

腰骨（腰椎）はヒトが直立位をとることになったおかげで、このように大きく重くなってしまった。

この椎間板は、椎骨とともに重い頭を支えることになるが、正確にいえば、背椎柱の上端は頭と顔の骨組みをたす頭蓋とつながっている。この頭の重さは平均値で、男一三五〇から一四〇〇グラム、女子で一二〇〇から一二五〇グラムである。

これを体重で占める割合でみると、体重のおよそ四〇分の一になる。動物ではどうか、シロネズミやテナガザルは二八分の一である。

◉人は立ち、歩く

人間の特長はなにかといえば、脳と知能、コトバ、直立二足歩行、器用な手そして道具を使いこなすことがあげられる。

この中で、もっとも基本的なものは直立して歩くことだ。

チンパンジーも二足歩行するが、人間のようにスムーズではなく、がに股であり、足在の外側で土をふみながら歩く、そのとき肩が左右に大きくゆれる。足は大きいので足はこびはぎこちない。サーカスでは、ズボンをはかされて人を笑わしてくれるが当人は迷惑このうえなしだ。

ヒトでは、大腿骨は股間節から膝にかけて内方に向かって下がる。そのために大部分の人は、両膝をつけることができるが、チンパンジーは股関節から大腿骨は垂直に下がるため、左右の大腿骨が平行である。両膝はいちぢるしくはなれる。

前腕、助骨、下腿骨、鎖骨、手、上腕骨、大腿骨、頭部、足、膝、蓋骨、胸骨、肩甲骨、背椎、骨盤。

この骨の名の書かれた順序、骨折はこの順の頻度でおこる。骨折になれば体は動かさないこと、そして専門医にみせることがまず大事である。

久々に笑顔戻る

第12回全日本女子チャンピオンズトーナメントが、2月15日、ジャパンオープンの興奮醒めやらぬ国立競技場代々木第2体育館で行なわれた。

今年は、ユーバー杯（世界女子バドミントン選手権）が日本で開催される年。

単3複4の試合形式が、今年から単5複4となるため、シングルスの占めるウェートが一段と増す意味から、この大会も例年以上に関心が寄せられた。

美しいフォームも、パワー不足が高峯の課題!?

羽待の若手・高校生ナンバー1の高峯が、ユーバー杯の主力となる米倉の胸を借りるとあって注目の一戦。

ゲーム開始早々、高峯は絶妙のネットプレーを決めて先手を取り、1―0、3―2とリードを奪って興味を盛り上げた。

しかし、歴戦の強者・米倉も黙ってはいない。

得意のドリブンクリアーを左右に散らし、力対力の勝負へ持ち込んだ。

非力な高峯にとっては、このクリアー合戦は苦しい。

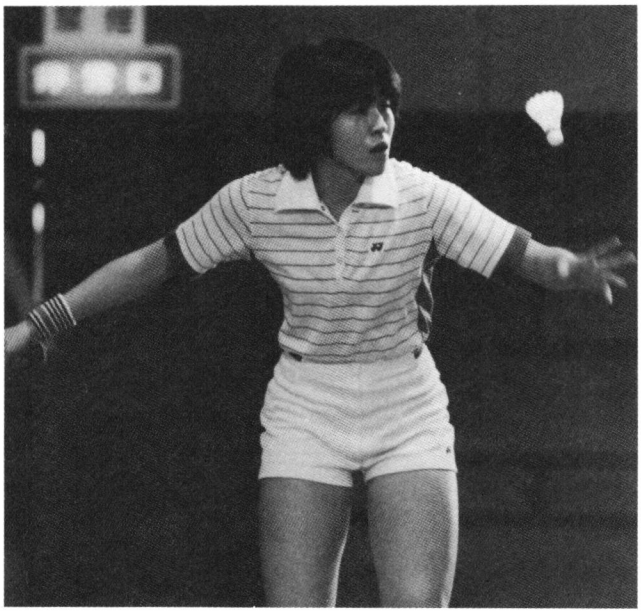
二度・三度とクリアーに打ち負けて、浅くなったイージーボールを、米倉にスマッシュ、力ットで決められると、今度は初球から際どいコースを狙い過ぎてミスを連発、追いつめられる前にと打って出ても無理な体勢からではかえってミスが増えるだけ、悪循環を繰り返して第1ゲームを失った。

クリアーで主導権を握った米倉は、第2ゲームでも安定したプレー、逆にクリアーが通じない高峯は完全に動きを封じられて持ち味を出せないまま敗北。

さすがに終盤、0―9から5ポイントを取って零封は免がれたが、パワー不足、クリアー力の非力さが目立った高峯だった。

しかし、合理的な美しいフォームは高峯ならではのもの。

バックサイド奥からの逆クロスカット、バックハンドのクロ



高峯力およばず

▼1回戦

米倉よし子（電電）2（11―11、11―3、11―5）0 高峯和子（熊本中央女高）

徳田敦子（サント）2（11―12、11―6、9―0）0 湯木博恵（カワサキ）

近藤小織（カワサ）2（11―11、11―3、3―0）0 大嶌和代（栃木今市高教）

北田スミ子（四条）2（11―12、11―5、11―0）0 東海林文子（サントリー）

▼準決勝

徳田敦子2（11―4、11―11、8―11、5―1）1 米倉よし子

近藤小織2（11―11、8―11、8―0）0 北田スミ子

▼決勝

近藤小織2（11―11、1―7）0 徳田敦子（近藤は初優勝）

2／15・東京

近藤、豪快さ一番

スカットには、シングルスプレーヤーに不可欠の切れ味と正確さがあり、試合巧者の長所と合わせて、将来を嘱望される選手であることに違いはない。

ユーバー杯メンバーから外された意地を見せてもらいたかった湯木は、この日はいたって柔和な表情、いつもの相手を刺すような鋭い眼光が見られなかった。

東海林またしても悪夢、接戦のすえ北田に敗れる

顔を合わせる度に大接戦を演じる北田と東海林は、今大会でもまたまた白熱した好ゲーム。

北田は、積極的に攻撃に出るが、東海林も負けてはいない、1オール、2オールとぴったり離れず、序盤戦から火の出るようなし烈な戦いとなった。

4オールでは、なんと10回を越えるサービス権の移動に、観衆もかたずを飲んで見守るだけ。

北田が、スマッシュを決めてこの均衡を破り5—4とし、東海林がたて続けにミスを出して7—4となったときは、勝負あったかに思われた。

それでも〝女王〟の貫禄を示し、今絶好調の徳田に対しクロスネットやレシーブの冴えを見せた。

が、この日の湯木は、やはり眠れる獅子。

勝負どころになっても、攻撃を仕掛ける動きはゼロ、2ゲーム目にやっと初めてスマッシュを打つなど、勝負に対する〝湯木らしさ〟が終始感じられなかった。

連戦の疲れか、精神的スランプか、技術的にはまだまだ頭抜けたものがあるだけに、従来の〝集中力〟を再び奮い立たせて欲しいものだ。

一方の徳田は、先のジャパンオープンで孤軍奮闘した通りの充実振り、大事な場面ではラリーに強い粘りを発揮して勝ち上がった。

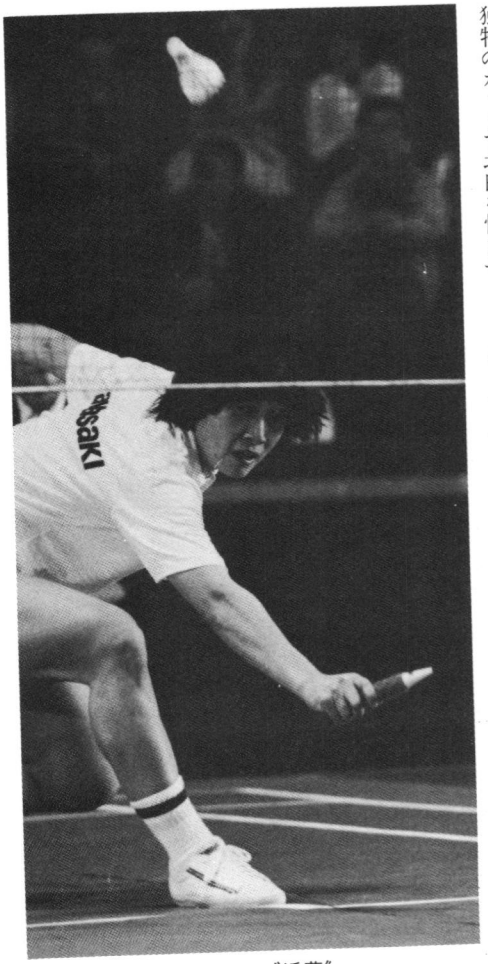
しかし、東海林もサウスポー独特のカットで北田を悩ませ、ジリジリと追い上げ遂に8オール、そして9オールとセッティングにもつれ込んだ。

東海林は、勢いに乗ってポイントを重ね、2—0とゲームポイントを握り、追う者の強味を見せたが、さすが若い北田はピンチに立っても攻撃に次ぐ攻撃と積極果敢。

今度は、北田が追う者の強味を発揮し、開き直ったかのようにジャンプスマッシュを決めるなど、一気に逆転に成功してしまった。

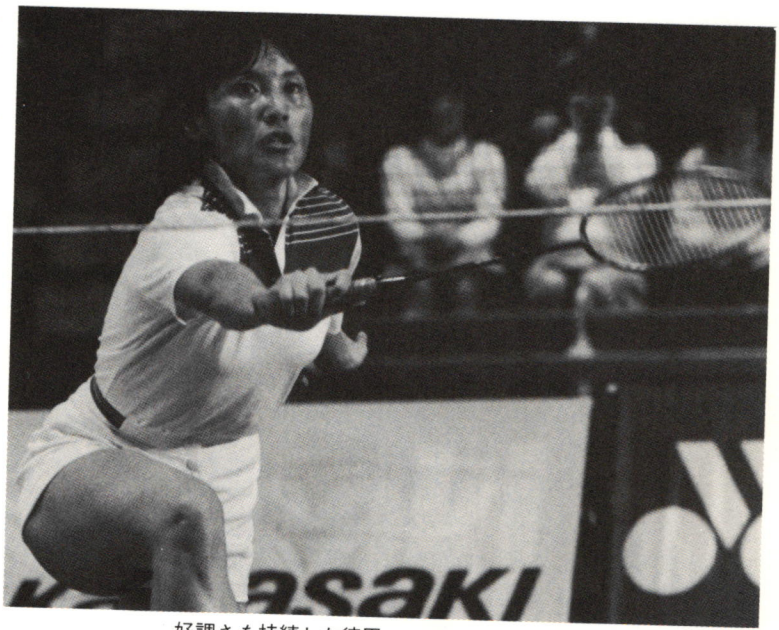
第2ゲームになると、北田の攻撃に滑らかさが出てきたから不思議だ。

第1ゲームは、北田のスマッシュがあたかも待ってましたといわんばかりの両サイドばかりへ集まり、苦戦の原因になって



久々のヤッターマン〝近藤〟

北田は若さを暴露


好調さを持続した徳田

いたが、2ゲーム目は時おり東海林のボディへも球を散らし、両サイドへのスマッシュを生かし決定打とすることができた。

両者の動きに明暗を分けたのは、やはり第1ゲームの最後の1ポイント。

大接戦をモノにした北田と、落とした東海林では、第2ゲームに目に見えない差となって現われるのは当然か。

東海林にしてみれば、昨年のオールジャパンでマッチポイントを逃がしたことが、頭のどこかにちらついたのか、またしても不運に泣く結果になった。

チャンスは、まだまだある。東海林の、今日までの地道な努力を思うと、そう叫ばずにはいられない。


米倉

そして、これもユーバー杯での期待が大きい近藤が、ジャパンオープンでの屈辱を吹き飛ばすような快調なスタートを切った。

対戦相手の教職員1位・大篤も、懸命に粘ろうとしたが、スピードの違いは大きく、第1ゲーム、3—0とリードするのがやっと、後は近藤の独壇場となった。

準決勝の第1試合、米倉対徳田はこの日初めてのファイナルゲーム。

第1ゲームは、米倉がペースをつかみ速いクリアーと、フェイントの効いたカットを主体に一方的に先取。

第2ゲームも、中盤まで徳田に1発目のミスが多く、7—2と米倉がリードし、そのまま終ってしまいそうに思えた。

しかし、どうしたことか米倉に今度は凡ミス病が移行、あっという間に7オールとなり、しばらくスマッシュの応酬があり

2／15・東京

徳田に安定感も、

新兵器ジャンプカット、ジャンプクリアーで圧倒、近藤に甦えるパワーとスピード

準々決勝の第2試合は、近藤対北田。

湯木、徳田、米倉を連破して、オールジャパンを制した北田が、今度は残る大物・近藤にどう戦いを挑むか、注目の一戦となった。

しかし、この日の近藤は、まさに〝ゼッコーチョー〟の近藤。

序盤戦から十八番のジャンプスマッシュに加え〝ジャンプカット〟〝ジャンプクリアー〟を新たに披露してくれた。

そして、何よりも素晴らしかったのはフットワークのスピード。

このスピードに、北田も終始攻め手が見つからない様子、試合開始と同時に先手を取っただけで、2―4と逆転されてからは、遂に一度もリードを奪えずに敗れ去った。

北田は、自分も決めなければならないと、ムキになって打ったのか、肩に力が入り過ぎてサイドアウトが多く、第1ゲームのヤマ場ではめったに打たないバックスマッシュを打ってミスするなど〝若さ〟が顔を出してしまった。

近藤の〝ゼッコーチョー〟の波は決勝になっても持続。

ジャンプからのクリア、カット、スマッシュで徳田を威圧して一方的に押しまくった。

動きのスピードを物語るのは、ヘアピンを何本も決めたこと、そして比較的ミスの多いラリー中のカットにほとんどミスを出さないばかりか、逆にノータッチで決めてしまったこと。

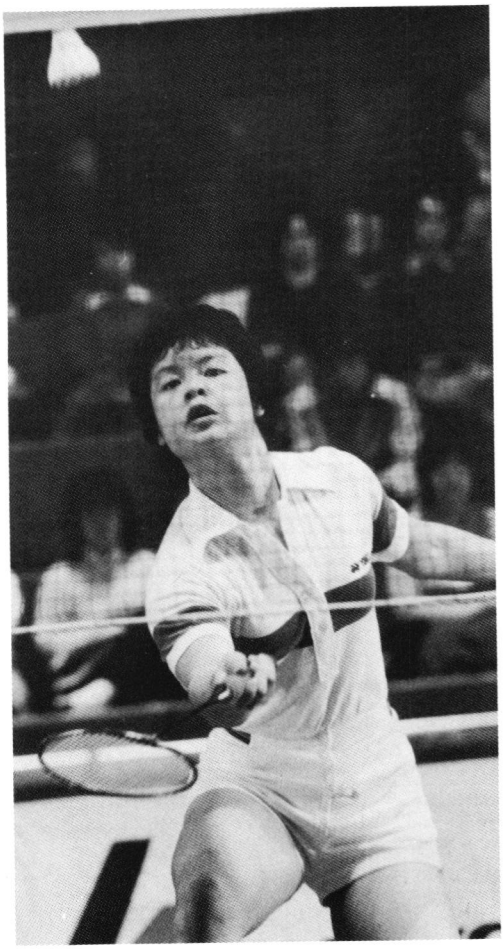
昭和52年度のオールジャパンを制したときの、スピードとパワーが、再び甦ったと思わせる近藤の圧倒的勝利だった。

盛り上がりを見せたが、見せ場はそこまで、再度米倉に凡ミスが出て、ファイナルゲームとなった。

第3ゲームは、一進一退のまま5オールとなったが、ここで米倉がスマッシュをネットにひっかけてずるずると後退、好カードの割にはあっけなく勝負がついてしまった。

2ゲーム目の中盤を境に、前半は米倉、後半は徳田の持ち味が発揮されたが、北田対東海林が2ゲームで45分間の所要時間があったのに比べ、この試合は40分間。

やや単調な内容になったのは寂しかった。



攻め急いだ北田

30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

創立30周年記念 4/1から8/31まで

ワイド・スケールで当たる

ビッグ・プレゼントが

ゴーセン Grand 30 キャンペーン



スポーツをリズムで満たせ。

ヘッドフォン型ラジオAM・FM



ゴーセンは今、抽せんで毎月3,300名さまにステキなプレゼントが当たるビッグなキャンペーンを実施中です。ゴーセン商品についている 30 YEARS シール1枚をキャンペーン参加店 店頭の応募ハガキまたは官製ハガキに貼付し、郵便番号、住所、氏名、性別、年令、職業(学校名)、所属クラブ名、お買い上げ店名、住所を明記してご応募ください。お一人さま何口でも結構です。

〈抽選方法〉毎月末に抽選を行います。当選された皆さまにはご当選カードをお送りしますので、お買いあげ店にてカードと引き替えにプレゼントをお受けとりください。

〈送り先〉〒540-91 大阪東郵便局私書箱第459号
株式会社 **ゴーセン スポーツ用品部キャンペーン係**

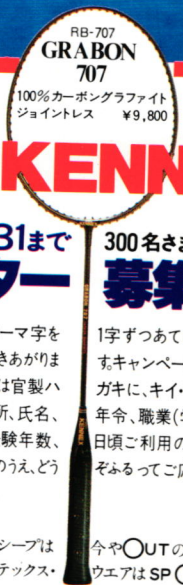


●くわしくは、ゴーセンスポーツ用品部、お近くのキャンペーン参加スポーツ店にお問合わせください。

ラケットスポーツで世界をむすぶ

GOSEN

本　　社 ● 〒540 大阪市東区豊後町4 ☎ (06)942-5816代
東京支店 ● 〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576代
福岡営業所 ● 〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247代
北陸営業所 ● 〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200代



PRO KENNEX プロケネックス

8/31まで モニター

300名さまに 募集中!

①～③に正しいローマ字をのキイ・ワードができあがりまの応募ハガキまたは官製ハ名、郵便番号、住所、氏名、クラブ名、プレイ経験年数、店名、住所を明記のうえ、どう

1字ずつあてはめると、5文字す。キャンペーン参加店店頭ガキに、キイ・ワード、ラケット年令、職業(学校名)、所属日頃ご利用のスポーツ用品ぞふるってご応募ください。

〈問題〉

1. ゴーセンのハイ・シープは
2. ゴーセンのウインテックス・のベーシック・カラー「あざやかな白」が基調です。
3. ゴーセンのインターナショナル・ブランドといえば PROKENNEX RACK○Tです。

今や○UTの代名詞です。
ウエアは SP○RT WEAR

〈ヒント〉ゴーセンは皆さまにすぐれたGUT、SPORT WEAR、RACKETをおとどけするラケットスポーツの総合メーカーです。

〈キイ・ワード〉

① ② S ③ N

〈抽せん・発表〉毎月末に厳正な抽せんを行います。ご当選者には当選カードをお送りしますので、ご明記のスポーツ用品店にてカードと引き替えにモニターラケットをお受けとりください。

〈送り先〉〒540-91 大阪東郵便局私書箱 第459号
株式会社 **ゴーセン スポーツ用品部モニター・キャンペーン係**

ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

230坪 760㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。

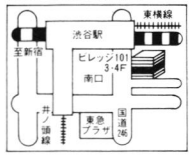


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3-4階） TEL03-464-9251〜2〒150
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

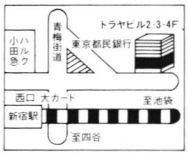


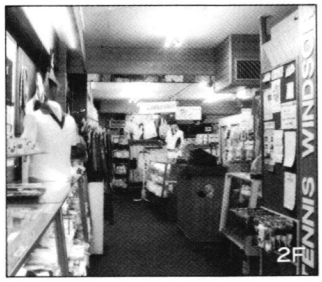
新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2・3・4階） TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

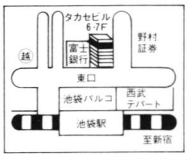


池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階） TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



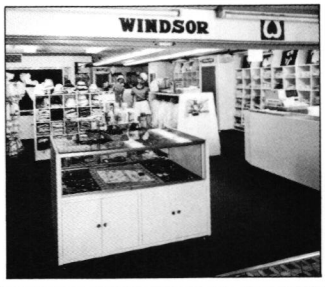




横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



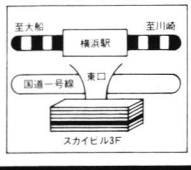


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時〜午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで

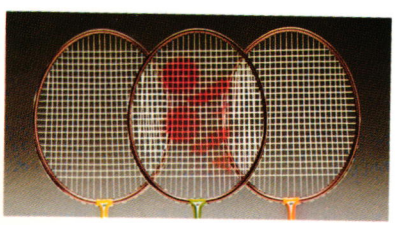


日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

リム・スイ・キング
Liem Swie King
'81全英バドミントン選手権優勝

こめ。」



YONEX®



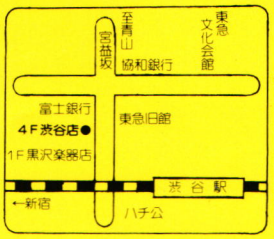
リム・スイ・キングの片腕。ヨネックス。

'81全英バドミントン選手権シングルスで'78・'79に続き3度目の優勝。その圧倒的なパワーとスピードで世界中の目をくぎづけにした男。リム・スイ・キング。今、私の手のなかにあるのはヨネックス。まさに片腕。最も頼れるベストパートナーだ。と語るリム。フルカーボンシャフト。特殊アルミ合金フレームの超軽量ラケットB-8500にすっかり惚れこんでいる。ラケットは軽くするとヤワになるという常識を破り、超軽量100g以下という驚くべき記録をたてたヨネックス。勝者リム・スイ・キングと組んでますますコートのスターを独占。

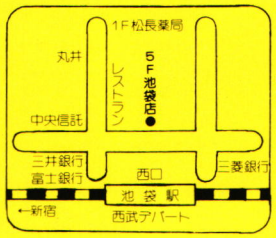
B-8500 FULL CARBON SHAFT RACKET
Carbonex8

〈カーボネックス・エイト〉‥色/イエロー・オレンジ・グリーン

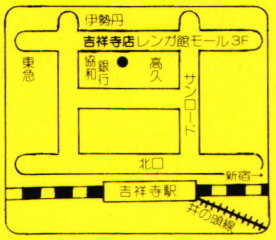
重量表示/U(99g～95g)2-U(94g～90g)



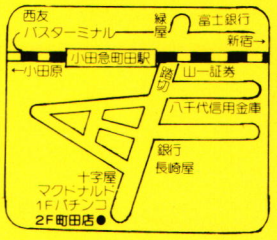
●渋谷店 バドミントン・プロショップ ☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ ☎03-988-0215



●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ ☎0422-21-7890



●町田店 バドミントン・プロショップ ☎0427-28-6050

2大プレゼント!!

ラケットショップ元町・エア

4/6(月)〜5/31(日) 全店一斉に

☆お値段はもちろんラケットショップ元町特別価格!!

全国郵送もOK

プレゼント①……ラケットには

バドミントンラケットお買上げの方にオリジナルガット（600円）と張り代(400円)をサービス。

プレゼント②ウエア又はシューズに

ウエア、又はシューズには、オリジナル商品のタオルグリップ、レザーグリップ、ガット、シャトルケース、コインケースの中からお好みの商品を1点サービス。

プレゼント③5名以上のグループに

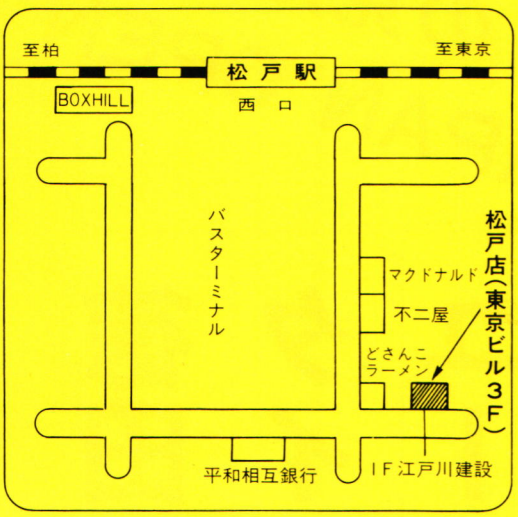
5名以上のグループでバドミントンラケットお買上げの方には、更にレザーグリップと、愛好者必読の書「ガッツ・バドミントン」を差上げます。

プレゼント④空クジなしの元町クジ

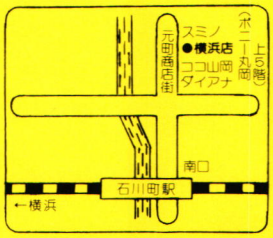
3000円以上お買上げ毎に1回、空クジなしでタンブラーグラス（2ヶ入、1ヶ入）、シャープペンシル、ランドリーケース、スポーツタオル、タオルグリップのオリジナル商品がもれなく当る元町クジを用意しております。

ラケットショップ元町®

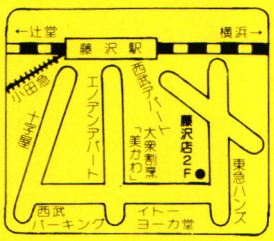
ラケットショップ元町®



松戸市本町1−8 第37東京ビル3F ☎0473(64)6284



●横浜店
☎5F テニス・フロア
045-651-2020
☎4F バドミントン・フロア
045-662-7133



●藤沢店
☎0466-26-2552
テニス・バドミントン

春をつげる

4/25(土) AM10 オープン

バドミントンプロショップ 松戸店

(4/25(土)〜5/5(火) オープニング・セール)



®

PRESS MAN
の見た
JAPAN OPEN

徳田・米倉組のタイトル死守でユーバー杯に光

東京新聞・後藤忠弘



唯一のタイトルは徳田・米倉組

徳田・米倉組がきわどいところで優勝を握り、開催国日本に、二年連続で貴重なタイトルをもたらした。

優勝の感想を聞いたとき、徳田が真っ先きに「途中で受け身に回り、押されてしまって……」と洩らしたように、最初、日本ペースで進んできた試合の〝流れ〟は、第2ゲームなかばから、突如、英国ペア有利に変わってしまった。

第1ゲームは12―1から15―6と楽勝。第2ゲームも7―4。「もう、ヤマが見えた」と勝負を意識し出したことで、気持が〝守り〟に傾き、消極的になった。このあと、徳田が2本続けて〝見送り〟の失点。

だいたい、ラインいっぱいに来たシャトルを「アウト」と思って見送る」ようなときは、選手の気持ちが消極的になったときであり、徳田には、とくにその〝癖〟が目立つ。（ついでにいえば、米倉はこういうとき、よくショート・サーブを失敗する）この2点献上が流れを変えたのである。7―4から連続11失点してゲームは7―15と逆転してしまった。

ファイナル・ゲームを前にした5分の休憩時間に池田信孝ユ杯コーチは、二人を呼んで〝活〟を入れた。「相手を圧倒する力もないのに、受け身のゲームをするとはなにごとか。楽をして勝とうと思うな。苦しくとも、どんどん攻め込んで行け」

これで二人はよみがえった。ダブルスは攻撃、すなわち〝上から下へ〟の打ち下ろしが鉄則。ましてや、相手は上背とパワーで上回るのだから、日本が受け身では勝てるわけがない。「第3ゲームでは、とにかく打ちまくることだけを考えた。8―4でチェンジ・エンド、自分たちが風上（会場入口から空気が流れ込むので、上空は少し風がある）に立ったので、打たなければ、の一心で攻めた」二人は振り返る。

前陣プレーの熟練者、ペリーの守備網にひっかからないように、後陣のウェブスターを攻めてエラーを出させる、という基本的な戦略が実り、これで、この〝世界のペア〟との対戦成績は3勝3敗となった。

「前日、シングルスで負けて

手綱を引き締めてかからねば!!

三月の全英選手権、五月のユーバー杯を前に、ジャパンオープン'81は、日本女子にどのような収穫をもたらしたのか。小飼栄一ユーバー杯監督は、次のように総括した。

ユーバー杯監督　小飼栄一

英国、インドネシア勢が意外なところで負けたりして、十分に彼女らの手のうちを見られなかったのは、ちょっと残念だ。しかし、両国の本当の実力は、もちろん、こんなものではないから、われわれも手綱を引き締めてかからねばならない。

日本はシングルスをとれなかったが、それほど悲観していない。近藤はケガのなおりきらないままの出場であり、止むを得ない点があったと思う。米倉はW・カーターに、昨年の世界選手権のときと同じパターンで負けた。ファイナル・ゲーム1点も取れないという、ずるずる負けはよくない。反省の要がある。

北田は思いがけないところで足をすくわれた感じがあるが、追い込まれて凡プレーを出しての敗戦は、やはりキャリア不足の若さというものだろう。その意味では、変ないい　たになるが、負けてプラスだったと思う。

徳田はよくがんばってくれた。最近はどちらかというと、ダブルス選手としての印象が強かったが、ユ杯では単複ともにやる前提でメンバーに入っている。全日本後、日本リーグではシングルスをやっていないので、慣れが不足していたろうが、決勝まで来たのだから、まあ合格といってもよい。決勝は徳田が弱かったというより、相手が強かったのだろう。「負けてもともと。1本でも多く（ポイントを）とりたいと考えていた。リードはしても、こちらは〝胸を借りて〟やっているつもりだし、いつかは逆転される、という気がしていた」と、額に大粒の汗を浮かべながら語る。

陣内も日本選手としては決して小さくはない（165センチ）が、相手ははるかにそれを上回る178センチ。高さとリーチでは勝負にならない。そこで「先に打って出て、ドロップで前へ寄せ、相手にスマッシュの機会を与えないようにした」

いわば基本に忠実な試合運びに徹したわけだが、これがよかった。スロースターターのベラワティは、自分のリズムをつかまないうちに、陣内に強打を封じられて、ずるずると闘志を失っていった。こうなると無欲の強み。陣内は「むこうが落としてくるコースがよくわかった」ため、早め早めにシャトルを拾い、反撃の糸口をつくった。

相手がどんな状態だったにせよ、勝ちは勝ち。陣内をユ杯グループに入れた小飼監督も「これで彼女を起用したかいがあった」と喜んでいた。

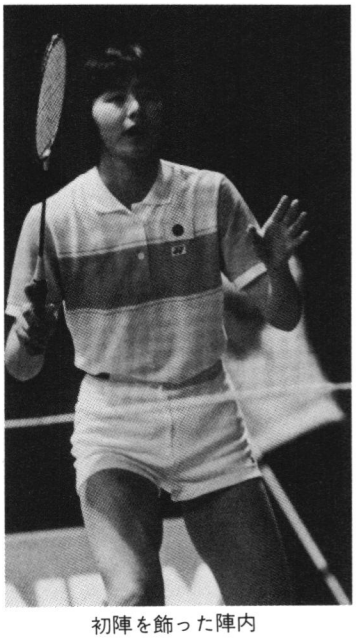
この一発でラリーの流れが変わるから……」という徳田の結びの言葉が印象的だった。

いるし、ユ杯のことがあるから、なにがなんでも取らなければと必死だった。それにしてもダブルスはサービスが大事ですね、

陣内、ベラワティ倒すでっかい星

○…高校二年ながら、早生まれのため、まだ16歳の陣内が〝世界のベテラワティ〟を倒すという、でっかい白星を挙げた。

勝負が決まった瞬間、大きな声で「よしっ」。しかし、本人は全然おぼえていない、という。冷静な試合運びで勝ったように見えたが、実際は緊張の連続だったのだろう。



初陣を飾った陣内

ハルトノに、直撃インタビュー

――優勝おめでとう。日本で試合したのはずいぶん久しぶりでしょう。

「ありがとう。日本にはときどき来る機会があったのですが、試合は一九七〇年のトマス杯（京都）以来ですから、11年ぶりになりますわ」

――ジャパンオープンの優勝で、再び全英の優勝を狙う自信ができたのではありませんか？

「いや、そうとばかりはいえません。日本の人々は私のことをよく知っており、応援してくろるし、私も日本が好きで、バドミントンが盛んだということも知っています。それで、今回、参加するからには、ぶざまな成績では終われないと考え、真剣に体調を整えてきました。

しかし、それと全英に出ることとは、また別です。ご存知のように、全英は〝非公式の世界選手権〟といわれる権威を持った大会であり、参加する人々は、みな栄冠を得ようと必死です。そこで勝つためには、全く別のコンセントレーション（集中力）が必要であり、そのためには、いまから心を新たにして、さらに一生懸命トレーニングしなければなりません」

――日本のファンの多くは、あなたとプラカシュの優勝争いを予想していました。しかし、プラカシュは意外に早く（準々決勝）で姿を消してしまいました。そういうこともあって、優勝までの道のりは、比較的、楽だったように思いますが。

「いや、そう見えるかもしれませんが、決してそうではありません。私はだれが相手だろうと、いいプレーをやる、そしてチャンピオンになる、ということしか考えていないのです。しかし、どんなに万全の準備を整えたつもりでも、ハンセンのようなこと（注、準決勝で左腰を痛め、途中棄権）がありますからね、なにが起こるかわかりません」

――これまでに二度、引退というか、第一線からしりぞきましたね。それはなぜだったのですか？

「バドミントンは激しいスポーツですから、せいぜい30歳が第一線で活躍できる限度だと思っていました。それで、としをとればとるほど、トレーニングと練習を多くやらないと力を維持できなくなります。私が試合に出るのは、勝つためであり、勝てないことがわかっている状態で、出ることはできません。これが一時、全英等に出なかった理由です」

――最近はどんなトレーニングをしていますか？

「長い話になってしまうのですが、簡単にいうと一日6時間ぐらい練習しています。そのうち、午前中の1時間は走ることを中心に体力トレーニングを欠かしません」

――あなたが七六年に全英で8度目の優勝を飾って、第一線をしりぞいてからこのかた、世界のバドミントンは進歩していると思いますか？

「リム・スイキンやプラカシュのように、私とはちょっとタイプの違った世界チャンピオンが誕生、さらにはリュースポンのように力も粘りもある選手も出てきました。いまは一種の〝戦国時代〟ですが、確実にバドミントンは進歩、発展していると思います」

――この大会の感想をひとこと。

「日本人は運営がきちんとしているし、なかなかよい大会だと思います。ただひとつ、来年から考えてほしいことがあります。それは試合スケジュールがきついことです。たとえば、2時間の休憩を置いただけで準決勝と決勝をやってしまうとか、ダブルスを入れると一日3試合やらなければならないとか……の問題です」

――当面の目標を聞かせて下さい。

「そうですね、なにか世界的なレコードとして残るものをやりとげてから引退したいですね。全英の8度優勝はもうすでに歴代記録になっているわけですが、これをもっと伸ばすとか、ひょっとしたら、八三年の世界選手権（注、世界選手権は三年に一度で、次回は八三年になる）にも出るかもしれません」



日本の北田と肩を組むハルトノ

中国がIBFに来年のト杯から出場する可能性

ルディ・ハルトノ・クルニアワン　一九四九年八月十日、インドネシアのスラバヤに生まれる。31歳、身長179センチ、体重70キロ。既婚、3歳の男の子、1歳の女の子がいる。現在はジャカルタでスポーツ用具店をやっている。バドミントンを始めたのは9歳のとき。「父がプレーヤーだったし、バドミントンはインドネシアで最も盛んな競技」だからというのが動機。一九六八年、18歳で全英選手権に初出場して優勝。以来、七四年まで7連勝、七六年8度目の優勝。昨年は第二回世界選手権に優勝、マスターズに準優勝（決勝の相手はいずれもリム・スイキン）。趣味は読書。水泳、卓球、テニスもやる。

国際バドミントン連盟（IBF）のステラン・モリーン会長は、ジャパンオープン'81最終日の一月二十五日、記者会見を行い「WBF（世界バドミントン連盟）との和解が進んでおり、順調に行けば五月二十六日、東京でユーバー杯の期間中に開かれるIBF総会のおり、WBF代表も出席して、両者の合同が正式に決まる予定だ」と語った。

両者の合体が実現すれば〝幻の王者〟中国が、晴れてIBFの仲間入りを果すことになる。

モリーン会長によれば、IBFとWBFの合同問題は一昨年、バンドン（インドネシア）で開かれたIBF総会のときから活発化し、同年末、両連盟主脳が香港で会談。その結果、双方が三人づつの委員を出して研究グループ（小委員会）をつくり、合同にさいしての障害、条件などを検討してきた。

ここで問題は次の3点に煮つめられた。

①台湾の処遇
②南アの処遇
③IBF内のメンバーの投票権

このうち、人種差別政策のために、国際スポーツ界から問題視されている（多くの国際競技団体から資格停止、除名などの処分を受けている）南アについては「当分の間、IBFがその主催大会に参加させない」ことにし、WBFはこれを了承した。

IBFでは会員国の投票権が一国一票制でなく、先進の有力国が複数票を握っている。このため、後発国は「運営の公平さを欠く」として、このしきたりに反対、これがIBFの分裂―WBF結成の原因ともなっていた。しかし、モリーン会長によれば「大国が多数票を持つしきたりには、それなりに理由があり、一夜にして変革するのは無理」というIBFの説明を、WBFも原則的に理解した。

また、最も難問だった台湾問題については、IBFはIOC（国際オリンピック委員会）の方式にならうことにした。

これは、中国（本土）をIOCメンバーとして迎え入れるにあたり、在来のメンバーである台湾も①登録名称を変更し「中国・台北オリンピック委員会」とする。②国旗、国歌も新しいものを制定する――ことを条件に残留を認める、としたもの。

IBFは、これにならい、二度にわたり台湾に登録名称の変更を呼びかけた。その結果、こんとし初め、台湾が「中国・台北バドミントン協会」（The Chinese Taipei Badminton Association）に名称変更したことが明かにされ、今回のジャパンオープンには、この新しい名称で参加した。

「これについては中国（北京）も喜んでいる。これで研究グループの任務は終了した。残るこまかい問題については、IBFは三月にロンドンで（全英の折り）、WBFは四月に香港でそれぞれ会議を開いて討議し、そこで合意が得られれば、五月に東京で最終決着をつけることになる」とモリーン会長は説明している。

また、会長はこれに関連して「来年五月、ロンドンで本戦（インターゾーン）を行う予定のトマス杯の申し込み締め切りを本年五月三十日まで延ばした。これは東京での会議でWBFとの合同が決まれば、ただちに中国が予選参加を申し込むことを見越したためである」と述べた。

このほか同会長は次の点を明らかにした。

①七月二十二日から八月二日まで、米国で非オリンピック種目の競技を集めた「ワールド・ゲームス」が開かれ、バドミントンも参加する。

②IBF主催以外の主要国際競技会の成績にポイントを与え、これをコンピュータに打ち込み、選手の国際ランキングをつくる。八二―八三年シーズンには間に合わせるつもりで、作業を急いでいる。対象とする年間トーナメントは8―12ぐらいになるだろう。

（注）主要年間トーナメントというのはマスターズ、全英、全デンマーク、スウェーデン・オープン、カナダ・オープン、ジャパン・オープンなどのこと。IBF主催競技というのは、ユーバー杯、トマス杯、世界選手権の三つである。

③いわゆる羽根打ちサーブ（シャトルをさかさに持って、羽根の部分を打って飛ばす＝回転がかかるので、英語ではスピン・サーブという）は、レシーバーに対してフェアでないとの声が強く、五月の東京総会で議題になる。禁止される公算が強い。

韓国女子チーム、カワサキと対戦

黄善愛につづく若手ズラリ!!

売り物の若さとパワーを披露

ジャパンオープンで旋風を巻き起こした韓国女子チームが、まだ興奮さめやらぬ1月26日、東京・カワサキラケット本社ビル体育館で、カワサキチームと親善試合を行なった。

ジャパンオープン女子単を制して一躍脚光を浴びた黄善愛は、あいにく足を痛めて出場しなかったが、金練子をはじめとする韓国チームの層の厚さは圧巻。巧さを主体にする日本とは好対照に、スピードとパワーを武器に、力強いバドミントンを披露してくれた。

なお、カワサキチームには特別参加として、四条畷短大の北田、冨田両選手、三洋電機の河村、平両選手が顔を揃え、あたかも〝日韓親善〟の趣きを漂わせていた。

対戦成績は次の通り。

姜幸淑	陳成玉	2	(15—8 / 15—2)	0	北田
金練子	柳尚希	1	(9—15 / 15—11)	1	湯木
羊幸淑	陳成玉	0	(4—15 / 11—15)	2	河平
柳尚希	1		(1—11 / 11—8)	1	北田
姜幸淑	2		(11—6 / 11—8)	0	湯木
陳成玉	1		(10—12 / 11—8)	1	端
金練子	柳尚希	2	(15—3 / 18—14)	0	近藤 渡辺

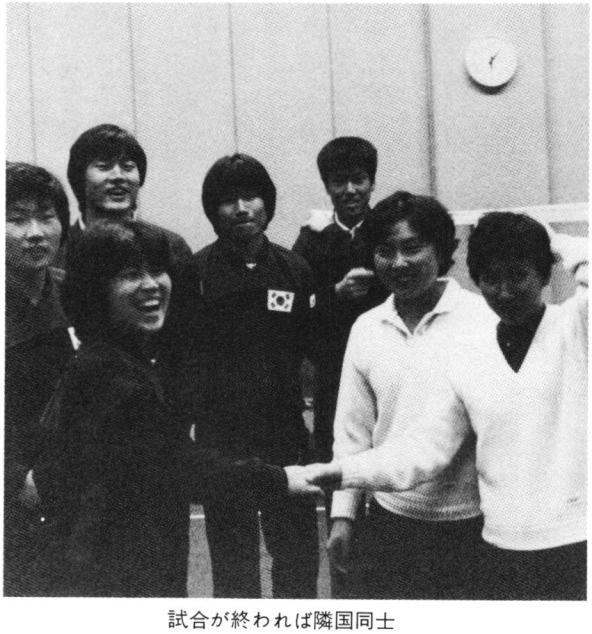
韓国チームは〝若さ〟が売り物だ。

金練子は高校2年生、そのほかの選手も、一昨年の〝日韓高校〟で来日した選手がほとんど。世界一若いチームということができる。

しかし、若さは時によって単調になることがある。

この日の試合では、第1ゲームは韓国のペースで進みながら、第2ゲームになると日本選手の老練な試合運びに競い負けるというケースが目立った。

しかし、国際経験がほとんど



試合が終われば隣国同士

素直な性格。黄と金はまだまだ伸びる!!

皆無の選手が、力いっぱいの素直なプレーを見せてくれるのは、いかにもすがすがしい。

「力強さはナンバーワン」（金コーチ）という柳尚希が、北田から第1ゲームを奪い、「小さいがファイトある」差幸淑が、憧れの湯木に勝つなど、黄善愛と金練子に続く選手も、目白押しといわんばかり。

いち時、途絶えていた韓国も、大学にバドミントン部が創設されたことから、より大きな炎となって再燃してきた。

うっかりすると、次回のユーバー杯では、インドネシア以上の強敵になるかも知れない。

そんな勢いを感じさせるのは何といっても、韓国選手のクリアー力と脚力。

いってみれば、基本となるものに魅力があるのだ。

女子チームを引き受ける金鳳燮コーチが31歳というのも、未知の魅力を感じさせる〝若さ〟を失ってはいない年齢。

こんなところにも、チーム一丸となって燃え上がる因があるのかも知れない。

試合には出場しなかったが、ジャパンオープンを制した黄善愛選手について、金コーチに通訳をお願いした。

――初めてのビッグ・トーナメントはどうでしたか。

黄善愛　緊張のしっぱなしだったが、優勝できてとてもハッピー。初めに一番有名な湯木選手と当ったので固くなった。

台湾オープンを勝ったので、それで自信がついた。

準々決勝で足の指を痛め、とても辛かった。調子がなかなか出なかったので、汗を沢山かいたのが良かったと思う。

――今回のためにどれぐらい練習したのですか。

黄善愛　去年の11月10日から12月20日までと、今年の1月6日から台湾オープンまで、一日に6時間練習しました。

金コーチ　朝は1時間半、インターバルトレーニング、10時から2時間、ウェイトトレーニング、サーキットトレーニングをやって、午後に3時間羽根を打ちました。

――これで一躍世界のトッププレーヤーの仲間入りですが、これからの予定、抱負は？

黄善愛　今年は全英に行きます。コーペンやギルクスと試合がしたい。できれば優勝したい。

金コーチ　今年は4人の選手を連れてヨーロッパへ行きます。金練子もそうだが、性格が非常に素直なので頑張ってくれると思う。身長（百七十センチ）もあるし、若い（一九六　年生まれ、韓国体育大1年）のでこれからもどんどん伸びると思う。



この面々が世界を暴れ回ることに事なる!?

全自衛隊総合バドミントン選手権大会

陸上・海上・航空
自衛官全国から集結!!

身体を鍛え、一般社会との交流に多大な役割

ここにも〝バドミントン狂〟がこんなに多勢。

2月6～8日、千葉県船橋市にある国家公務員船橋体育センターで、全自衛隊総合バドミントン選手権大会が行なわれた。

全国の陸上・海上・航空自衛隊から集まった自衛官が、男女合わせて約二百名、日ごろ磨いた腕を競い合った。

今年は、自衛隊バドミントン連盟が創立15周年を迎え、記念誌も発行されるなど充実著しいものがあり、年々進歩の跡を見せる競技とともに、将来大いに楽しみなユニークな競技団体といえる。

「毎年、全日本クラスとまではいきませんが、確実にレベルは上がっています。」（杉田光男氏・大会委員長）というように、レベルの向上を物語る熱戦が、会場のあちこちで見られる。

これだけの熱気があれば、本当に何年か後には、この中からトッププレーヤーが生まれるかも知れない。

現に、男子選手の中には、全日本社会人の30歳以上のベスト4の常連、白井規久夫さんの顔も見える。

また、一般男子シングルスのチャンピオンとなった金本俊夫さんは、東京・大田区のチャンピオンでもあり、大の練習好きで有名。

しかし、競技力向上は嬉しいことに違いないが、それよりも何よりも、重大な任務に就く自衛官にとって、バドミントンの果たす役割は大きいという。

千葉瑞圓氏（大会会長）は、「バドミントンは、体力、敏捷性、反射神経を必要とする自衛



大いに盛り上がった団体決勝戦

上位入賞 やっぱり嬉しい

官には最適な競技です。」そして、「われわれと、地域住民との交流の手段として、バドミントンは欠かせないものになってきました。」と、バドミントンの効用を力説する。

最近では、指導員としてママさんバドミントンなどに貢献して、表彰を受けた人もいるそうだ。

老若男女を問わず、手軽にできるため、自衛隊の中でも40歳以上のプレーヤーが多い。

この大会でも、個人戦の新人、壮年、ベテラン1部・2部を組み入れて、誰にでも優勝のチャンスを与えるなど〝楽しむ〟大会としての配慮があり、いかにも和気あいあいとした雰囲気に満ち溢れていた。

女子団体優勝の伊丹チームやっぱりウレシイ。昨年は1回戦で敗れましたが、今年は優勝するつもりでした。準決勝で大苦戦してダメかと思いましたがいうことありません。

練習は、週に3・4回、3時間ぐらいやりました。

女子団体準優勝の松戸チーム去年は3位だったので、マズマズというところです。でも決勝は自滅してしまい、手も足も出ませんでした。

練習は、昼休みを利用して毎日しています。

男子団体優勝の舞鶴チームダブルスは2つとも取れる予定だったので、順当といえば順当ですが、第1ダブルスはヒヤ汗をかきました。監督が見にきてくれたので力強かった。ここ10年メンバーに変動はありませんが、体育館があって週に3回、2～5時間の練習ができるので恵まれている方だと思います。



男子団体優勝の舞鶴チーム



男子団体準優勝の百里チーム



女子団体優勝の伊丹チーム

男子団体準優勝の百里チーム

苦戦が続きましたが、予想以上の成績で嬉しい。特に決勝では力以上のよのを出せたので満足しています。普段は週2回の練習ですが、ここ2ヵ月は毎日しました。近くの石岡第一高校へ行って、一緒に練習させてもらいました。技術は伴ないませんが、体力だけは負けないようにトレーニングは充分にやりました。

男子団体3位の仙台Aチーム

新人が増えてはいるんですが、シングルスに弱いのがウチの欠点です。オーダーは、大体巧くいったんですが……。宮城沖地震で体育館が倒れ、練習には苦労しています。近くの高校や大学へ行っているんですが、やはりコンディションの調整が難かしかった。



男子団体3位の仙台Aチーム

▼男子団体
1位・舞鶴、2位・百里、3位・仙台A、松戸A

▼女子団体
1位・伊丹、2位・松戸、3位・東立川、海横須賀

▼青年シングルス
1位・金本(百)、2位・千葉(仙)、3位・白井、白井(舞)

▼青年ダブルス
1位・早坂・千葉(仙)、2位・白井・白井(舞)、3位・松井・小野(檜)、長谷・土肥(板)

▼女子シングルス
1位・山根(伊)、2位・北山(仙)、3位・木村(伊)、山本(市)

▼女子ダブルス
1位・名取・谷田川(東立)、2位・山根・細根(伊)、3位・菊地・大出(東立)、遠藤・茂木(松)

▼新人シングルス
1位・岡崎(仙)、2位・田中(真)、3位・庄子(真)、安仁屋(東立)

▼新人ダブルス
1位・岡崎・渡辺(仙台)、2位・竹内・前谷(防大)、3位・清水・根本(松)、野呂・山影(立)

▼壮年シングルス
1位・瀬野(舞)、2位・大越(真)、3位・室岡(霞)、小山(舞)

▼壮年ダブルス
1位・小菅・榊原(檜)、2位・瀬野・川村(舞)、3位・糸賀・五味渕(霞)、斉藤・松浦(松)

▼ベテラン1部シングルス
1位・杉田(用)、2位・本多見(松)、3位・中畑(下)、石持(仙)

▼ベテラン1部ダブルス
1位・木多見・中畑(松・下)、2位・杉田・原田(用・古)、3位・北村・武井(十)、河角・林(仙)

▼ベテラン2部シングルス
1位・長内(下)、2位・千葉(仙)、3位・尾島(仙)、野渡(市)

▼ベテラン2部ダブルス
1位・中山・野渡(市)、2位・尾島・千葉(仙)、3位・高橋・大塚(東立)、伊藤・金田(東立)



女子団体準優勝の松戸チーム

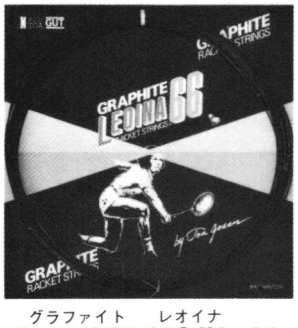


RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991(代)

われらのクラブ

山の上から全国を狙う

川崎市立菅生中学校バドミントン部

川崎市といえば、すぐに公害病などが連想されるが、北部の高津区には小さな頂きがいくつもあり、樹々の緑が溢れんばかり。

そんな小さな山の頂きから、毎日練習に励み〝全国制覇〟を夢見る小さな瞳がある。

川崎市立菅生中学校バドミントン部の仲間達だ。

まだ歴史は浅いが、年々力をつけ今や日本一を目指している。

練習風景を見れば、その学校の強さが解るというが、まさに菅生中学校がそれ。

指導の先生が留守でも、整然とノックをこなしているのに驚くばかり。ノックを上げる人、打つ人、シャトルを拾う人、手渡す人、キャプテンの合図で流れるように進行してゆく。

指導者の熱意と、生徒の熱心さが一体とな



この日ちょうど来校した銭谷選手を囲んで

って、近い将来かならずこの菅生中学校が、旋風を巻き起こす日がやってくるに違いない。

「ええっ、川崎にもこんな所があったの。」

初めて来校した人達が、一様に漏らす感想です。

川崎というと、工業都市、公害……のイメージがすぐに浮かぶと思うのですが、そんなイメージとはおよそほど遠い、緑に囲まれた丘陵地帯、川崎市の北部・高津区菅生のモンベイ山の頂上にあるのが川崎市立菅生中学校です。

四季折り折りの花が咲き、竹の子や、栗や柿の実がなり、校舎の窓からは丹沢山系、富士山が一望できます。

本校にバドミントン部ができたのは、学校創立2年目の昭和49年、男女各10名位の人数でスタートしました。

それから3年目の昭和51年秋、川崎市大会で初めて男子が3位に入賞してから、毎年着実に力をつけて、翌年は県大会、5年目には関東大会、6年目に全国大会へと進出することができました。

階段を一段ずつ昇るように……。

今年(55年度)は、市大会・県大会で優勝、関東大会ベスト8で残念ながら、今一歩のところで全国大会へ進出することはできませんでした。

練習は、週2日半（火・金と土の半分）を体育館半面（2コート分）使用の内練とし、残りは校庭で外練を行ないます。

主な練習内容は、ブラジル体操、インドネシア式シャトル・フットワーク、各種ダッシュ、ノック、2対1、パターン練習、各種フットワーク等で、良いと言われるものは他のスポーツの練習方法でも、どんどん採り入れて行なっています。

練習の中で特に注意していることは、常に試合のことを頭に置いて行なうということで、例えば素振りにしても、シャトルと相手を想定させ、目の動きもつけさせるようなことです。

我が部の、チョット誇れる〝ベスト3〟をご紹介しますと……。

一つは、バドミントン狂であるということ——とにかく良く知っており、好きである。

二つ目は、素直で練習好きなこと——体調を崩した子に、他の生徒より軽いメニューを与えたり、止めたりすると非常に嫌がり、泣くこともしばしば。

三つ目は、まだまだ完全ではないが、審判技術。

悩みも勿論あります。

丹沢山系に陽が沈むため、平地より暗くなるのが早い等いろいろな理由で、練習時間が多く確保できないことと、全面の練習スペースがあまり得られず、全面感覚が乏しくなることです。

しかし、幸いにも多くの方達のご協力とご理解に支えられて、恵まれた道を歩き続けているようです。

今後も、このことを忘れずに、一人でも多く〝バドミントン狂〟を育てていきたいと思う次第です。

生徒達は、今日も何とか全国大会へと、鷲ヶ峰おろしに負けることなく頑張っているのです。

（文・川崎市立菅生中学校教諭・大網恵太）



整然とノック練習をこなす

寄稿

選手育成 熊本方式の実態

(4)「一貫指導とその問題点」

熊本バドミントンクラブ監督　葦原健身

（先月号よりつづく）

熊本県の青少年層を支える社会体育クラブは、指導理念として「6・3・3・4制による学制分断をさける」ために、小さいころからの一貫指導を掲げている。

学校教育のそれが、中学あるいは高校3年間で次へバトンタッチをすることにたいして、社会体育は、同一組織によるクラブ制度を取り、小学～中学～高校～大学～一般と長い時間をかけて育成を図るわけである。

常識的に考えて、学校クラブの選手を競争させるだけでは、トップスターは育つものではない。

自らの力で、有望なジュニアを養成する方策と努力が必要であることは、言うまでもない。

現に、新しい発想で、国民的な体力づくりと競技力向上の改善にとりくむ時期にきている。

また学校においても、「全児童・生徒の体育とスポーツ」とを両立させることは、施設不足や指導者不足などの厚い壁があり、学校体育だけで解決できるものでもない。

この他、バドミントンは筋力よりスピードが重要であり、運動神経（調整力）の発達は小・中学の時期でピークへ向うので、その時期をとらえ、能力開発のレールへ乗せる。

あるいは、筋力は中・高校の時期で最ものび、20才で頂点に達するので、そこへ技術面のピークをもってゆく。

バドミントンの至適年齢は、男子で17才、女子のそれは1～2年早いことから、本格的なトレーニングは中学時代からが適当。

したがって、そのためには幼少年層の開拓を手がけるべきだ、などが、一貫指導の根拠となっている。

いずれにしても、学科試験優先の日本の教育制度では選手は育てにくい。

こういった考えから育成はなされているのだが、現実には、「せっかく、いい子を育てても、選手はクラブに残らず、高校は熊本市に行ってしまう場合が多い」という意見に代表される悩みがある。……（八代クラブ）

高校側の態度は、総論（一貫指導）賛成、各論（高校進学後の社会体育クラブ所属）反対であり、そのために引き抜き行為が日常茶飯事化し、憂慮すべき問題となっている。

小学時・中学時と一番手のかかる厄介な時は、社会体育クラブにすべてお任せであるにもかかわらず、いざ進学ともなると



父兄の声援を浴びて

「ああしろ、こうしろ」という関係者の口出しが始まり、これが一番問題をこじらせる。

皮肉なことに、熊本の社会体育方式を妨げるのは、熊本の関係者ともいわれる面一があるのである。

この他一貫指導を妨げるものとしては、「高校進学問題」の他に、昭和54年4月5日付文部事務次官通知による「児童・生徒の運動競技基準改正」があげられる。

(5)「熊本県の今後」

熊本の地において、小学生層へ種はまかれ、そして苗は、曲りなりにも、熊本方式といわれる社会体育クラブにおいて育てられてきた。

次は、実を実らせる時であろう。（世界に通用する選手の育成）

そのためには、もっと下の幼稚園層へ種をまくことが必要だろう。

また、小学生の競技人口をここ数年のうちに、一万人（現在登録人口千八百人）にすることを考えている。

ただ、やたらにリクレーション人口だけが増えるのも困るが、

これは、中学生の全国大会は、学校基盤でないと出場できないというもので、競技単位の社会体育クラブとしては、スポーツ本来の姿である自主性を狭める死活問題となっている。

つまり、文部省が学校体育の大会として全国大会を公認するということは、社会体育組織の出場を認めないということであり、実力日本一のクラブであっても、学校に分散すれば出場もおぼつかないともなりかねない。

世界に通用する選手育成の目論みにあたっては、関係者に十分の協力・理解を求めることはやぶさかではないが、それでもなお、百年の伝統を誇る学校体育中心の中で、全面的な支持が得られるとは限らず、社会体育の理想を求めれば求めるほど、何かにつけ足を引っぱられることは多い。

能力開発のレールに乗せる人材は、多いにこしたことはない。

さいわいにも最初は、県内各地に有望クラブの台頭を見るようになってきている。

熊日学童オリンピック大会においても、優勝者が各クラブに分散してきている。

各クラブの実力が上がり、望しい形になってきたと思っている。

熊本県の小学生に関する限り、見通しは暗くない。

このチビッ子選手たちにどう道を開くか、熊本にとって最大の課題といえよう。

問題は中・高校生であるが、学校体育とのかねあいがあるために、育成の妨げになっていることは、さきにも述べた。

学校側が、あくまでも「教育の一環とする御旗」を掲げ、栽培する努力をせず、実だけを取り続けるならば、熊本のバドミントンは、再び、低迷をもたらすことになるだろう。

逆に、今日までの躍進をもたらした、社会体育方式をバックアップする体制ができるならば、熊本の躍進は続くことだろう。

最後に、誤解のないようにいっておきたいが、私は、「学校体育の趣旨」に反対しているわけではない。

むしろ、その趣旨には大賛成であり、文字通りの学校体育として、「クラスマッチの全国大会」等が催されればとさえ思っている。

ただ、だれしも考えるように、レジャーも学問になってしまう抜き難い体質・学校教育制度の中で、世界が取れるのかと問うているのである。

熊本も、これからが正念場と思われる……。



次代を担うチビッ子選手

間にシャトルがたとえ一部分でもサーバーのウエストより高かったとき）と説明されている。

P

pace ペース　歩幅，一歩，歩調などというのが原義。①これから『ものの動く速度（一定の単位時間当たりの速さ）』を指すようになり，競走（ランニング）の速度，または，先頭走者の速度の意味で使われている。②しかし，バドミントンではシャトルの飛ぶスピードと，それにこめられた力を総合した状態を指し，日本語では『変調』という訳語が与えられている（競技規則第4条第2項および第3項参照）。Webster's sports Dictionary　はこれをこう説明している。"To hit a ball or shuttlecock wich a specific controlled force or speed."（ボールやシャトルを特定のコントロールされた力やスピードで打つこと）

pair ペア　2個（または2人）で1組になっているもののことで，夫婦とかダブルスの「組」を意味する。動詞として使えば「1対にする，組み合わせる，交尾する」などのことになる。例 Doubles pairings will be announced tomorrow afternoon.（ダブルスの組み合わせは明日午後，発表される）。ちなみに，英語ではダブルスの「組」のことはペアよりもチーム（team）と呼ぶことの方が多い。例 A miked doubles team of husband and wife.（夫婦で組んだ混合ダブルス・チーム）

partner パートナー　一般には『同じ仕事をしている仲間（共同経営者など）』のこと。バドミントンでは，ダブルスで自分と組む相棒を意味する。part（部分）を分担して協力する，というのが原義。

placement プレスメント　ねらいどおりに飛んだ打球，ねらい定めて打った球で，そのために相手が取れなかったもののこと。placement shots（プレースメント・ショット）などともいう。動詞のplaceは『ねらったとおりの場所に打つ』意。

play プレー　名詞，動詞同形。多彩な意味に使われるが，大別すると①スポーツ競技，試合などをやる②遊戯などをする③演技，演奏などをする④～ごっこをする（play doc. お医者さんごっこする，など）――となる。①の場合で気をつけなければならないのは「スポーツをやる」という表現にplayを使って "play sport" とはいえないことである。この場合は "to enjoy sports" とか "to engage in sports (activities)" などという。

「バドミントンをやる」は "play badminton" でよいが，バドミントンの話の中で "play the shuttle" のように使われるときは「ストロークする，シャトルを打つ」意味になる。

player プレーヤー　プレーをするもの，のことで，これも幅広く使われ，「スポーツ等をする人」のほかにも①演奏家，演技者②チェス，カードなどをやる人，ギャンブラー③レコードの演奏器械，等の意味がある。スポーツ競技では『競技者』『選手』の訳語をあてはめることが多い。

バドミントンでは競技規則5のaにプレーヤーの定義がある。すなわち "The word "player" applies to all those taking part in a game."）プレーヤの名称は競技に参加するすべての者に適用される＝バドミントン競技者はすべてプレーヤーと呼ぶ）

playing captain (～manager) プレイング・キャプテン（またはマネジャー）　実際に試合に出る『選手』でありながら主将や監督などを兼ねている人。バドミントンのような個人競技では，たとえばユ杯やト杯の場合に，そういうことがあり得る。キャプテンは単なる主将でなく監督を意味する場合があり（たとえばテニスのデビス・カップ），マネジャーも日本語では『チームの雑用係』だが，英語では監督のことである。

☞ captain, manager

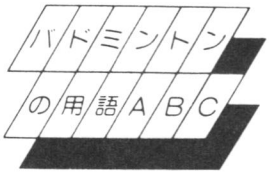
point ポイント　原義は極微小の場所，すなわち，とがったものの先き，とか，点，線，面などというときの『点』のことである。とがったものの先，という例では ball-point pen（ボールペン）がある。

スポーツ競技では，一般に試合の勝敗を決めるための得点を意味するが，バドミントンのようにポイント→ゲーム→マッチ（試合）という積み重ねの構成になっている競技では，ポイントは『素点』（勝敗を決める最小単位）ということになる。

バドミントンでは『イン』サイド（サーブ権を持っている方）がラリーに勝った場合しかポイントにならない。ポイントが決まった場合，主審は「ポイント」とコールしなければならない。

pop fly（ポップフライ）　威力のない小飛球のこと。野球用語からの転用で，もとはpopcon（ポプコン。いってふくらかしたとうもろこしの粒）という言葉からもわかるように，「ぽんとはじける」意味。バドミントンでは，主として前陣でネットテープより低い位置でシャトルをとらえ，下から上へ打ち返そうとするときに，この種の飛球になることが多い。また，そのように威力のないシャトルが上がることを，pop up（ポップアップ）などという。なお，pop music（ポップミュージック）のpopは，popular（ポピュラー，流行の）略語。

（つづく）



後藤忠弘／編

O

opponent オポーネント　敵。一般に反対するものの意で，スポーツの場合は試合の対戦相手のこと。語源はoppose（反対する）と同じでラテン語。

out　アウト。反則等，競技規則の定めるところにより，プレーが無効になる状態（例，野球）。バドミントンやテニス，バレーボールなどコート競技では，打球がライン（正しくはバウンダリ・ライン＝コートとそうでない区域の境界線の意味）外に落ちたことをいう。バドミントンの場合，線審は規則に定めるゼスチャーをすると同時に，主審に聞こえる声で「アウト」とコールする。なお，線上に落下した場合は「イン」(有効打）である。

☞ in

"Out" side　アウトサイド競技規則5の(C)（日本語版は5条3項）に次のように書かれている。"The side for the time being having the right to serve shall be called the "In", and the opposing side shall be called the "Out" side.（現にサーブ権を持っているサイドを「イン」サイド，その対戦者を「アウト」サイドという。スポーツでは一般に攻撃構を持っている側を，「インサイド」，その相手方を「アウト」サイドということがある）。

英語の綴りが，わざわざ"Out"と引用符でくくり，大文字の書き出しになっているのは，単にout side とした場合，意味不明瞭になることを避けるためである。また，これをout sideと続けて一語にしてしまうと「外側の，外部の」という，全く違った意味になるので注意を要する。

☞ "In" side

over hand　オーバーハンドサービスに関するフォルトの1種で，打球の瞬間，ラケットの握り手よりも，ラケット頭部が下方になかった場合，これを俗にオーバーハンドといっている。しかし，これが英語であるかどうかは，大いに疑問の余地がある。少くとも筆者の目にした5冊の英文の入門指導書，2冊の用語辞典にはこのような単語は出てこない（もちろん，英文規則書やふつうの英語，英和辞典にも見当らない)。ちなみにover handと一語にして書いた場合は，いわゆる野球投手などの上手投げ（または，それに準じるモーション）を指し，オーバーアーム(overarm) の同義語である。

なお，このフォルトについての競技規則の定義は次のとおりである。(14のa項）"if at the instant of the shuttle being struck the shaft of the racket be not pointing in a downward airection on to such an extent that the whole of the head of the racket is discernibly below the whole of the server's hand holding the racker."（シャトルが打たれる瞬間に，ラケット頭部全体が，そのラケットを保持しているサーバーの手全体よりも下方にあると，はっきり見分けられる程度に，シャフトが下を指していないとき）

overhand　オーバーヘッド。「頭上の」という文字どおりの意味から，頭上いっぱいに利き腕を伸ばした打点でシャトルを処理するストローク類。テニスではオーバーヘッドからの打球はスマッシュぐらいしかない。しかし，バドミントンではクリア，スマッシュ，ドロップの3種を打ち分けることができるため，最も基本的で，かつ重要な打球法となっている。

over the net　オーバー・ザ・ネット。ストロークのフォルトの1種で，打球行為にさいし，相手鎮空を侵犯することをいましめたもの。シャトルがネットを越して，自分のコート鎮空に到達する前に打球することを，俗にオーバー・ザ・ネットといっている。これもはたして英語であるかどうか疑問がある。規則14のf項は次のように述べている。"If, when in play, the initial point of contact with the shuttle is not on the striker's side of the net."（インプレーキ，シャトルに最初に触れた地点が，ネットを境界に，打ち手側のコート領域内でなかったとき）

このフォルトのポイントは『打球点』がどこか，ということなので，打球の余勢でラケットが相手コート領内に入り込むことはかまわない。

over waist　オーバー・ウエスト。オーバーハンドやオーバー・ザ・ネット同様，英語であるか否か疑問が残る用語。サーブのさい，ウエスト・ライン（ベルトまたはヘソぐらいの高さ）より上で打球する反則行為を，とにかく，こう称している。例によって規則の条文（14のa項）を紹介すると"If in serving,(i) any part of the shuttl at the instant of being struck be higher than the serVer's waist."（サービスで，打たれる瞬

第9回全国高等学校選抜九州地区予選

男女とも熊本が独占

女子、陣内につづく森山が楽しみ

第9回全国高等学校選抜バドミントン競技大会九州地区予選が、2月14・15日の両日、長崎市体育館で開催された。

男子団体は、優勝候補・九州学院（熊本）の福田が椎間板ヘルニアで欠場したため混戦となったが、予選リーグの雪辱を決勝リーグで果たした九州学院が優勝。

女子団体は、予想通り昨年の三冠王（選抜、インターハイ、国体）熊本中央女が、圧倒的な強さで代表の座を獲得した。

個人戦は、男子が昨年の井上（熊商大付）、一昨年の権藤（九州学院）のような、傑出した選手が見当たらなかったのに比べ、女子は陣内（熊本中央女）が評判通りの強さを見せ他を圧していた。

今年の活躍が期待できるのは、男子では伊藤（九州学院）、江坂（長崎瓊浦）、目野（福岡山門）、吉弘（熊本商大付）、女子では陣内を筆頭に井村、高峯（熊本中央女）、森山、三田（信愛女学院）、広瀬（長崎鶴鳴女子）、佐名、宮本（大分昭和女子）などが挙げられそうだ。

また、15日には昼休みを利用し、遠来の各チームのために地元鶴鳴女子の応援団が演技を披露し、大会に華を添えていた。

▼男子団体順位

1位 九州学院（熊本）
2位 瓊浦高（長崎）
3位 熊本商大付属（熊本）
4位 山門高（福岡）
5位 宮崎工業（宮崎）
6位 鹿児島高（鹿児島）
7位 那覇高（沖縄）
8位 城南高（福岡）

▼女子団体順位

1位 熊本中央女（熊本）
2位 鶴鳴女（長崎）
3位 信愛女学院（熊本）
4位 昭和女（大分）
5位 八幡大付属（福岡）
6位 大川高（福岡）
7位 南部商業（沖縄）
8位 佐賀女子（佐賀）

▼男子シングルス決勝

伊藤（九州学院）2（15—8、15—0）0目野（山門）

▼女子シングルス決勝

陣内（熊本中央女）2（11—4、11—0）0佐名（昭和女）

▼男子ダブルス決勝

吉弘・東（熊商大付）2（15—1、15—1）0富里・根間（那覇）

▼女子ダブルス決勝

井村・高峯（熊本中央女）2（15—5、15—4）0宮本・佐名（昭和女）

編集室から

▼いよいよ春。南の地から桜の便りが届き、日一日と桜前線の北上が伝えられます。厳しかった今年の冬もお別れです。甲子園では春のセンバツ。そしてバドミントンもセンバツを皮切りにシーズン突入です。

▼日本はシーズンが始まったばかりでも、海外では今まさにクライマックス。デンマーク、スウェーデンオープン、最後に全英オープンと、一大クラシック・イベントが続いています。当編集部からも日本選手団にピッタリと同行して、密着取材を行なォておりますから、来月号をお楽しみに!!　っ

▼トッププレーヤーはトッププレーヤーとして、底辺を形成する人口も、これまた上昇一途の増加ぶりです。その悩みとして、一般プレーヤーの活躍の場が少ないそいう便りが届いています。当編集部では、この悩みを少しでも解消できるように考えています。皆さんからの〝おチエを拝借〟できれば幸いです。お便りを編集部あてにどうぞ!!

バドミントン界　The Badminton World

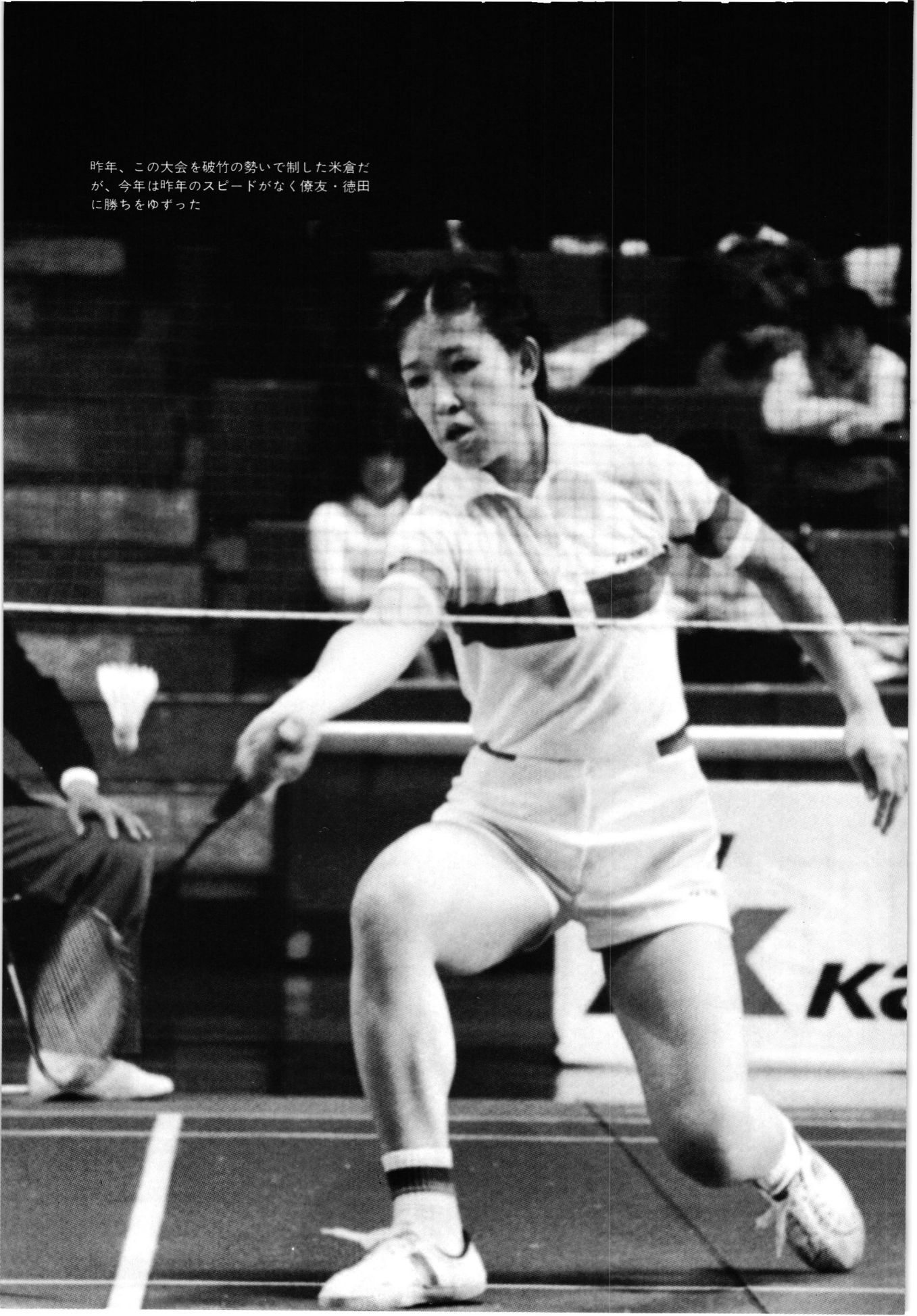
1981年 3月号　©1981年　通巻第137号

写真植字／サカキバラ写植
印刷・製本／根岸印刷

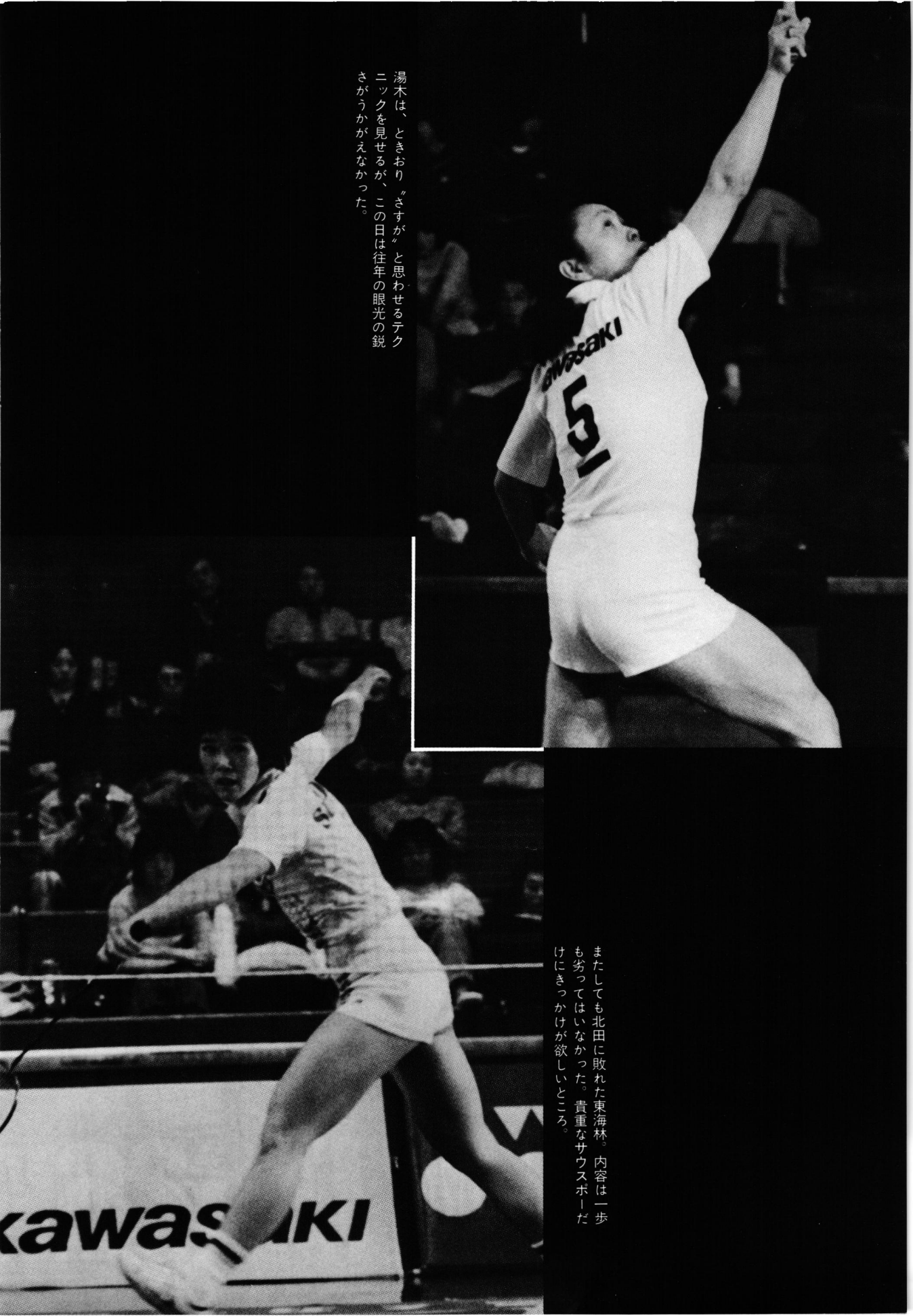
定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円（送料共）
振替＝東京8－10737

昭和56年3月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952

◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

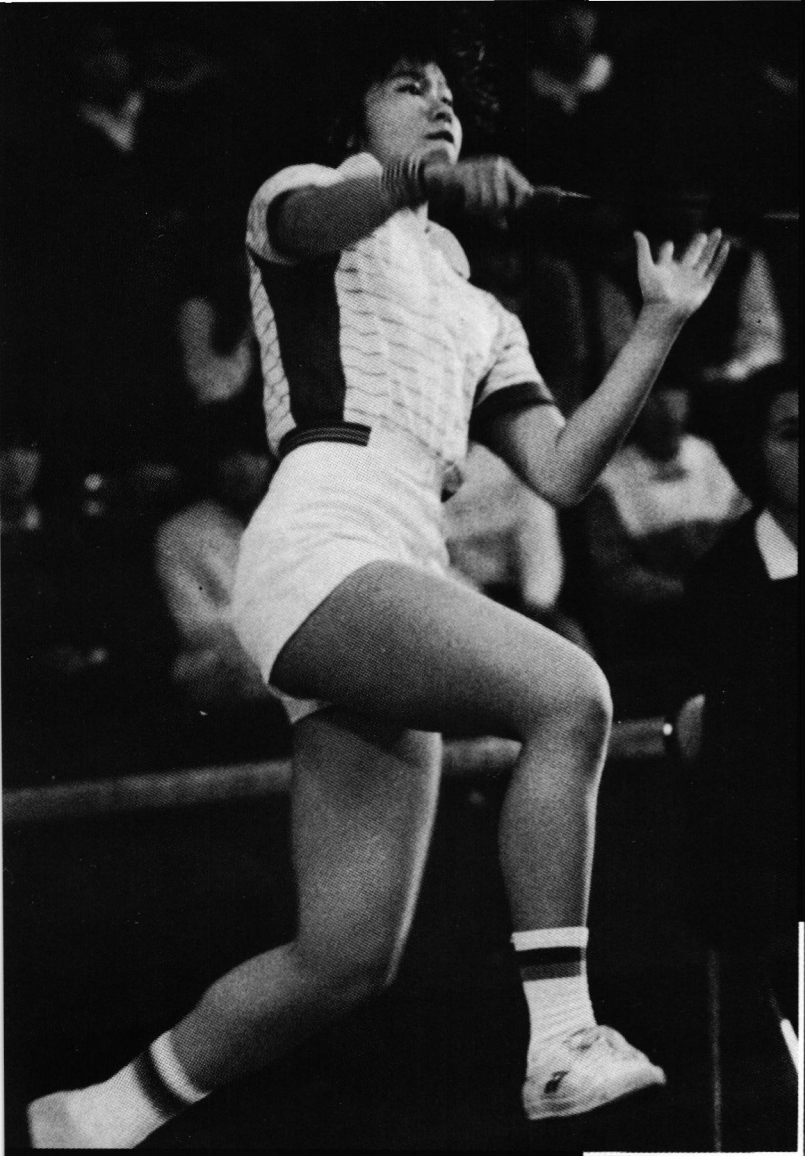


昨年、この大会を破竹の勢いで制した米倉だが、今年は昨年のスピードがなく僚友・徳田に勝ちをゆずった



湯木は、ときおり〝さすが〟と思わせるテクニックを見せるが、この日は往年の眼光の鋭さがうかがえなかった。

またしても北田に敗れた東海林。内容は一歩も劣ってはいなかった。貴重なサウスポーだけにきっかけが欲しいところ。

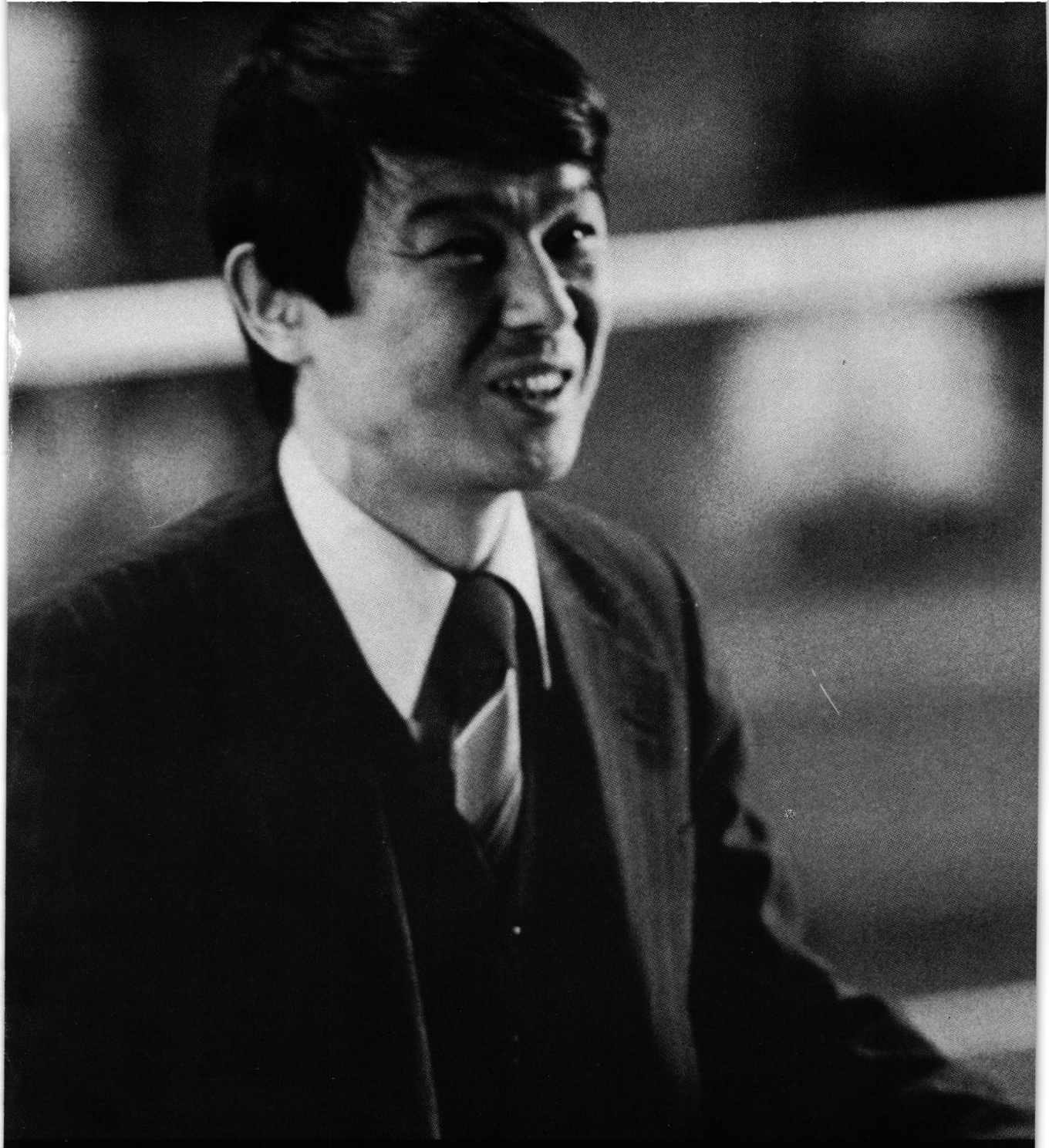


若手の高峯は米倉に一蹴されたが、試合運びの巧さ、勝負に対する集中力は並々ならぬものを感じさせた。





2年連続出場の大蔦は、教員らしい落ち着いたムードを持ってよく健闘したが、近藤のスピードについてゆくのが精一杯。



片岡輝明氏（四条畷学園教員）が第３回記者会賞を受賞。徳田、高田、植野、平、河村、秋本姉妹、北田など数多くの名選手を育て上げた功績に対するもの。鬼の眼も今日ばかりは下がりぎみ



DÉFI

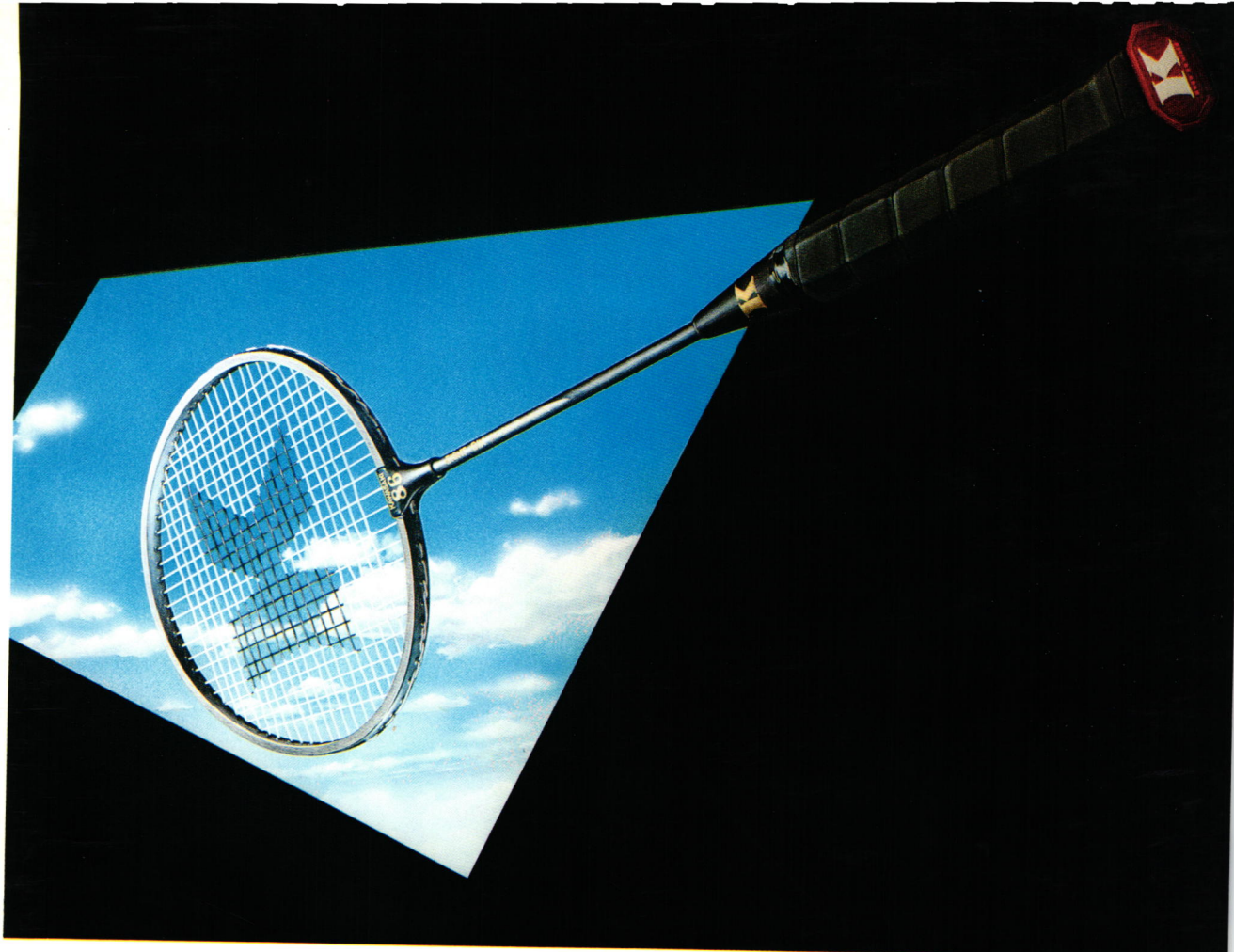
イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

カワサキラケット株式会社





エイトシックス　B-86

グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)
フレーム価格 13,000円

この軽さを探がしていた。
ニューテクニックが生まれそうだ。

あるハイジャンパーは地球の引力に1㎝多く逆らうために2万回も跳んだ。いつの場合でも、スポーツマンの流す汗ほど貴重なものはない。ときにシャトルがおよそ200㎞/hourを起すバドミントンの世界でも、多くの汗が流された。そして手に、美しいB-86。“スピード時代”への完璧な対応を目指して……。

軽さで群を抜き、剛さでまた群を抜く。オールグラファイトB-86。新しい時代の王道へ、いま。

kawasaki
カワサキラケット株式会社